

しょうけい館 ー戦傷病者史料館ー  
移転整備 設計内容について

令和4年12月

しょうけい館

I. 移転先施設について . . . . .	3
II. 移転に伴う申請等について . . . . .	8
III. 施設配置計画について . . . . .	13
IV. 展示設計内容について . . . . .	31
V. 管理・運営システムについて . . . . .	64
VI. 今後のスケジュールについて . . . . .	70

# I. 移転先施設について

# I. 移転先施設

## 1. 施設概要

### ■ 建物名称

グリーンオーク九段

### ■ 所在地

東京都千代田区九段北1-11-5

### ■ 規模

地上8階 地下1階建 (入居階：2・3階)

### ■ 延床面積

約3,400㎡ (入居階1フロアあたりの床面積：約350㎡)

### ■ アクセス

九段下駅 徒歩 約3分 ・ 飯田橋駅 徒歩 約7分

グリーンオーク九段



# I. 移転先施設

## 2. ビルのフロア構成

8F	オフィス
7F	オフィス
6F	オフィス
5F	オフィス
4F	オフィス
3F	しょうけい館 (展示室)
2F	しょうけい館 (受付・事務所・図書閲覧室等)
1F	エントランス /コンビニエンスストア
B1F	月極駐車場

1F: エントランス



1F: エントランスホール



1F: エレベーターホール



# I.移転先施設

## 3.立地・入居条件

### ■移転先立地について

九段下駅徒歩3分ほどで、アクセスできる便利な立地。  
目白通り角地に立地しているため、視認性も良好である。

### ■沿線・最寄駅からの距離

東京メトロ半蔵門線「九段下」駅より 徒歩3分  
JR中央・総武線「飯田橋」駅より 徒歩7分  
都営新宿線「神保町」駅より 徒歩7分

### ■現しょうけい館の立地の比較

九段下駅の出口からの距離は、現施設よりも若干遠くはなるが、徒歩3分という距離であるため、駅の近隣に位置している。  
そして大通りに面しているため、建物の入口も通りから視認でき、外部への看板などを設置した際も視認性が向上している。

### ■入居に伴う要求条件

- ・ 事務所仕様から博物館として使用するための、建物の用途変更を実施
  - ・ 博物館としての設備要件の付与 (例) バリアフリー対応等
  - ・ 土日祝日の開館に伴う、1階エントランスの開放
  - ・ 不特定多数の訪問者の出入りの許可
- ※ 貸主との合意要件より抜粋



# I.移転先施設

## 4.視認性

### ■視認性に関する評価

目白通りという大通りに面しているため、大通りからの施設の所在が良く見え、現施設よりも視認性が向上している。

視認性が向上されたことにより、目的意識のある来館者への誘導も分かりやすくなり、目的意識のない来館者への誘因も見込める。



反対の通りより見た外観写真。  
写真右側方向が九段下駅。



1階エントランス部分の写真。  
写真右側方向が九段下駅。

## II. 移転に伴う申請等について

## II.移転に伴う申請等

### 1.必要となる申請等

#### ■確認申請

グリーンオークの2階3階を、現在の「事務所用途」から「博物館用途」へ変更する為、**用途変更の「確認申請」**が必要となる。「確認申請」とは行政機関等の審査機関へ本計画における書類/図面等を提出し、建築基準法やその他法令に準拠しているか審査を受けることである。法令準拠が認められ、**審査に合格すると「確認済証」が交付され、工事を開始することができる。**

#### ■申請先

本工事の申請先は「**千代田区役所建築指導課**」となる。建築基準法、バリアフリー法や各種条例に関する審査は「千代田区役所建築指導課」、消防法に関する審査は「**麹町消防署予防課**」が行う。

確認申請提出前に法令解釈の齟齬が無いように「千代田区役所建築指導課」、「麹町消防署予防課」とは設計段階において事前協議を行い、法令に準拠した設計を行っている。事前協議は2022年7月から開始し、2022年11月の時点で「千代田区役所建築指導課」とは約10回、「麹町消防署予防課」とは約5回の協議を行った。

#### ■工事終了後の検査

工事が終了すると千代田区建築指導課へ「**工事完了報告書**」を提出して工事が終了したことを報告する。

用途変更は建築完了検査はない。麹町消防署予防課については「**消防検査**」があり、現図面通りに工事が完了しているか現場検査が行われ、検査に合格すると博物館を使用できることになる。

#### ■申請状況

現在は7月より開始した事前協議を終え、**確認申請を2022年11月22日に千代田区役所へ提出した。**審査は1.5ヶ月程かかるため、現在は提出した書類/図面について千代田区からの質疑対応及び是正対応を行っている。

**2023年初旬の「確認済証」の交付を予定し、2023年1月中旬からの工事開始となる。**

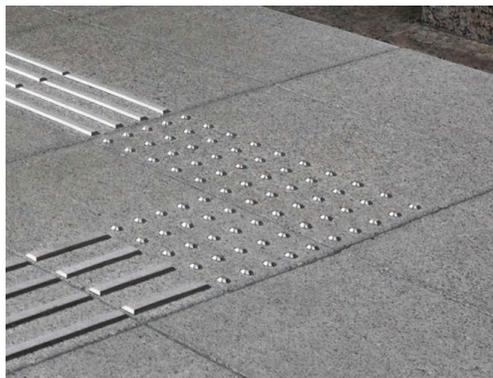
## II. 移転に伴う申請等

### 2. 確認申請審査対象となる主な設計内容例-1

#### ■ バリアフリー法

正式名称は、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」と言う。この法律では、高齢者や障害者が建物や交通機関における移動を円滑にするため、利用者数や施設の規模により、様々な施設でハードとソフトのバリアフリー化が義務づけられている。現グリーンオークは事務用途であり、建物がバリアフリー対応となっていないため、博物館が入居する2階と3階、1階の共用部をバリアフリー対応とする設計を行っている。

<点字ブロック設置：イメージ>



<点字案内板設置：イメージ>



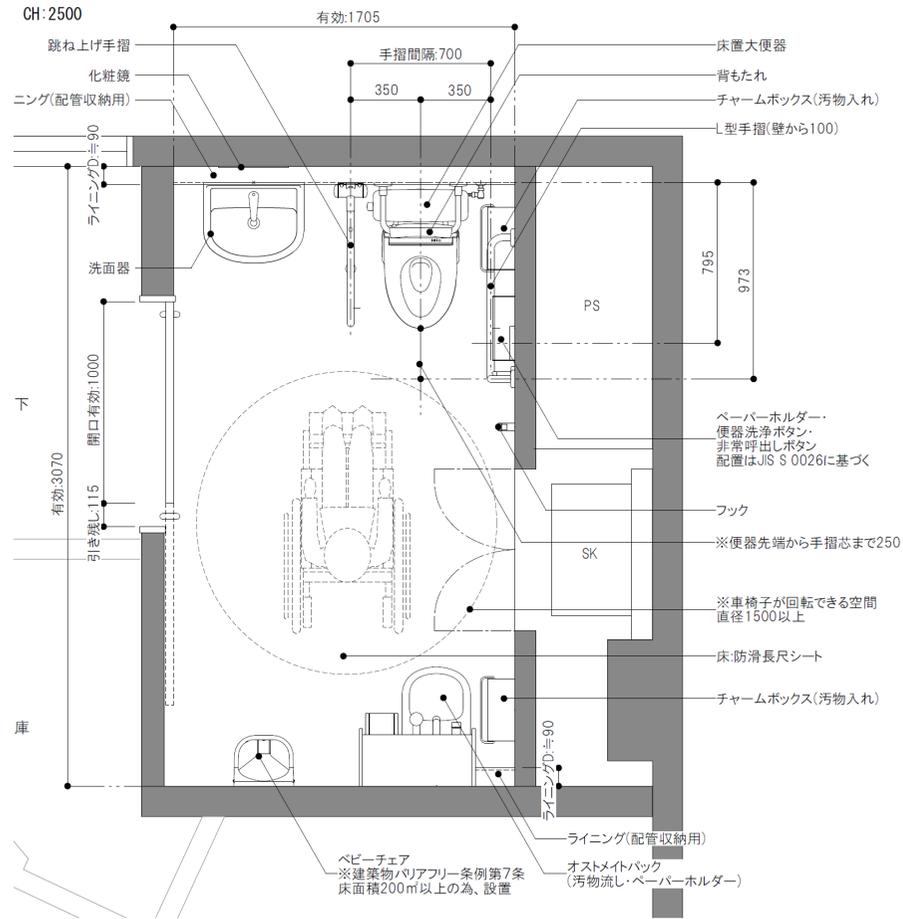
<バリアフリーエレベーター：イメージ>



## II. 移転に伴う申請等

### 2. 確認申請審査対象となる主な設計内容例-2

<バリアフリートイレ：イメージ>



3階 バリアフリートイレ平面詳細図

<バリアフリー設備：イメージ>



【ベビーチェア】  
TOTO:YKA15S



【コンパクトオストメイトバック】  
TOTO:UAS81RDB2NW#NW1



【L型手摺】樹脂製  
TOTO:T112CL11#NW1



【跳ね上げ手摺】樹脂製  
TOTO:T112K7R#NW1



【フック】  
TOTO:YKH22  
【チャームボックス(汚物入れ)】×2台  
TOTO:YKB102

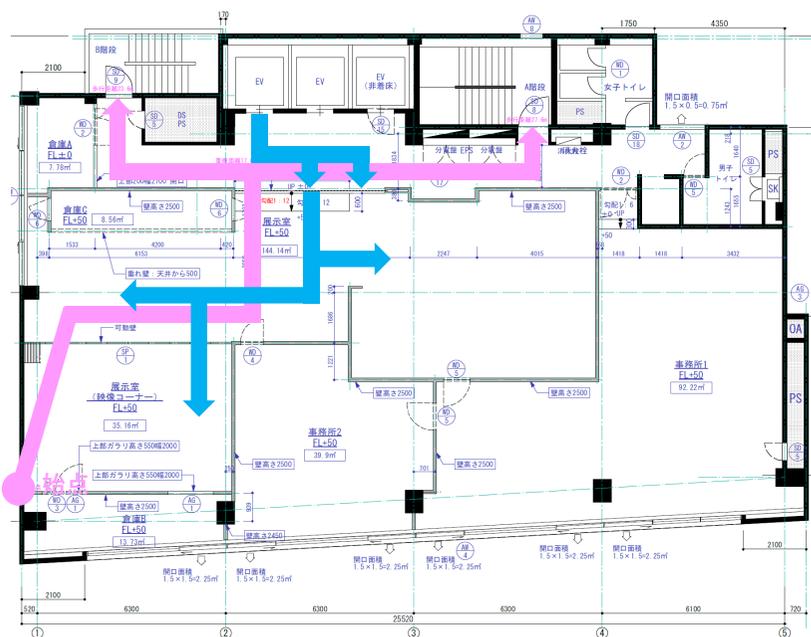
## II. 移転に伴う申請等

### 2. 確認申請審査対象となる主な設計内容例-3

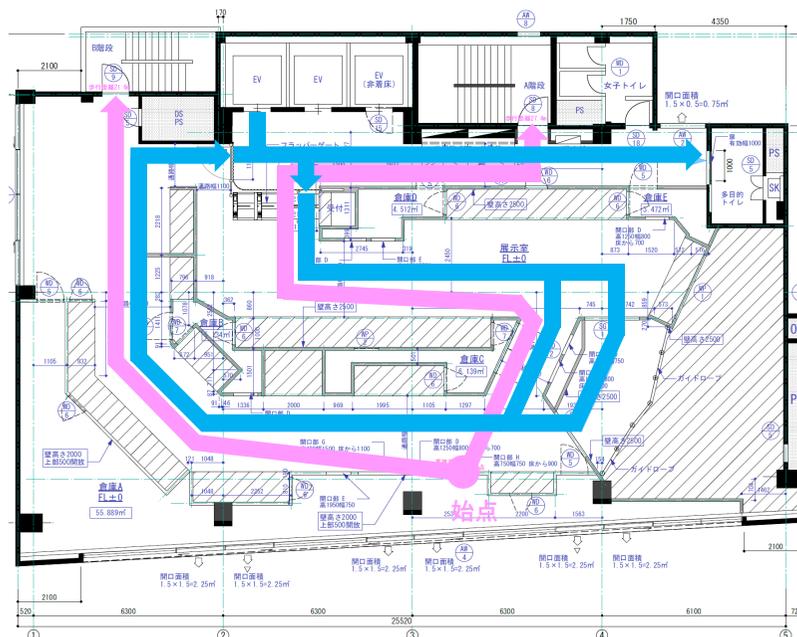
#### ■ その他

車椅子利用者の移動範囲「移動円滑化経路」には移動に障害が無いよう必要な通路幅を確保、段差にはスロープを設置する。また運営上、フラッパーゲートやパイプカーテンを設置するため、設置されていても全利用者に対して有事の際には、建物外への避難が円滑に行えるよう、避難距離等の計算を行っている。

<2F>



<3F>



凡例：移動等円滑化経路 

凡例：避難経路 

凡例：展示物設置範囲 

<段差スロープ：イメージ>



<フラッパーゲート：イメージ>



<パイプカーテン：イメージ>

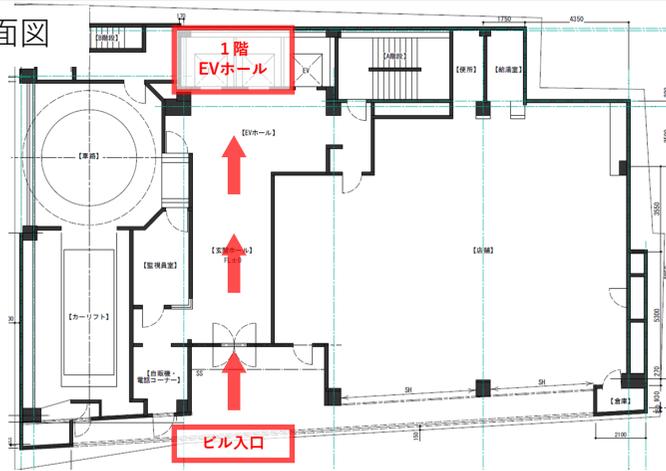


### Ⅲ. 施設配置計画について

# Ⅲ.諸室配置計画

## 1.全館展示体験ルート

■ 1階平面図



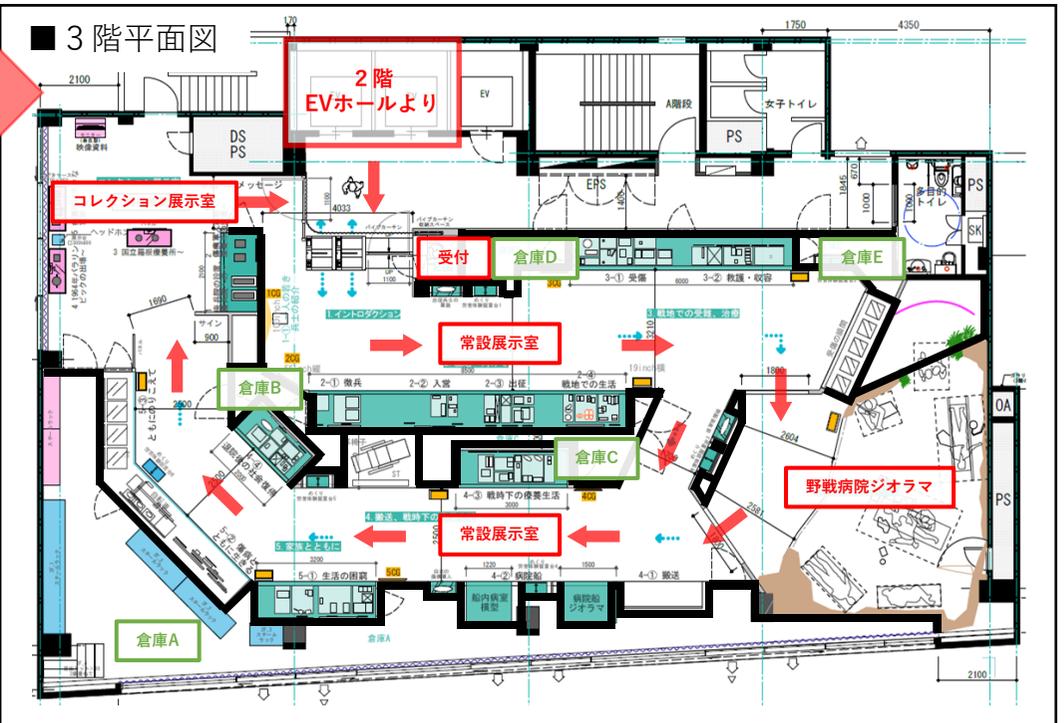
現状の施設とは異なり、移転先は8階建てビルの2・3階に位置するため、来館者はビルの1階入口からエレベーターを使用し、2階受付に向かう。

2階エレベーターホール正面の総合受付にて入館手続きを行い、2階施設（多目的プレゼンテーション室／企画展示室／図書閲覧室／体験展示）、3階施設（常設展示・ジオラマ展示／コレクション展示）へと進む。

■ 2階平面図



■ 3階平面図



### Ⅲ.諸室配置計画

#### 1.新旧諸室面積対比表

施設名称		現施設面積		移転先面積(2階)		移転先面積(3階)		移転先面積(合計)		
展示施設		347	㎡	38.6	㎡	233.4	㎡	272	㎡	
	常設展示室・野戦病院ジオラマ	253	㎡		㎡	203.1	㎡	203.1	㎡	
	1階常設展示	23	㎡		㎡		㎡		㎡	
	企画展示室	71	㎡	38.6	㎡		㎡	38.6	㎡	
	コレクション展示室		㎡		㎡	30.3	㎡	30.3	㎡	
情報施設		233	㎡	123.4	㎡		㎡	123.4	㎡	
	多目的プレゼンテーション室 (現映像シアター)	63	㎡	35.1	㎡		㎡	35.1	㎡	
	図書閲覧室	46	㎡	49.6	㎡		㎡	49.6	㎡	
	閉架書庫・資料室	24	㎡	38.7	㎡		㎡	38.7	㎡	
	収蔵庫(内部)	100	㎡		㎡		㎡		㎡	
その他施設		250	㎡	134.1	㎡	76.5	㎡	210.6	㎡	
	受付・エントランスホール	69	㎡	20.4	㎡	1.4	㎡	21.8	㎡	
	事務室	98	㎡	92.2	㎡		㎡	92.2	㎡	
	倉庫	83	㎡	A+B	21.5	㎡	A~E	75.1	㎡	96.6
共有部(トイレ含む)		156	㎡	62.08	㎡	48.28	㎡	110.36	㎡	
◇延床面積		986	㎡	358.18	㎡	358.18	㎡	716.36	㎡	
外部施設										
	収蔵庫	16.5	㎡	100	㎡		㎡	100	㎡	
◇総面積		1,002.5	㎡					816.36	㎡	



# Ⅲ.諸室配置計画

## 2.諸室概要／2階

### 1) 入口／エントランスホール／受付

#### 入口

- ・幅員：W3800mm
- ・施設1階の出入口

#### エントランスホール

- ・面積：17.4㎡
- ・幅広い来館者層に開かれた施設導入空間

#### 触れて知る展示

- ・エントランスホールの一隅に「触れる展示」を設置。
- ・「触れて知る展示」は、トルソー（マネキン）に義肢を装着したオブジェで戦傷病者をイメージ。
- ・簡易義手等を装着して義手を体験するといった体験展示とする。  
（※この体験型展示の実施には、係員の補助〔或いは監視対応〕が必要となるため、受付員が常勤する2階受付付近に設置することとする。）

#### 受付

- ・面積：3㎡
- ・施設全体の受付
- ・館運営管理対応
- ・スタッフ1名による受付対応

### 2) 図書閲覧室

- ・面積：49.6㎡
- ・館所蔵図書資料の閲覧／保管
- ・受付を隣接させることにより来館者からの問い合わせやレファレンス機能を拡充
- ・四方を書棚が囲み、中央に閲覧席（情報検索端末、証言映像視聴端末）を配置、また閉架書庫も隣接させることにより、閲覧室としての機能向上を実現。

#### ■ 該当諸室



# Ⅲ.諸室配置計画

## 2.諸室概要／2階

### 3) 企画展示室

- ・面積：38.6㎡
- ・春夏の企画展（またはミニ展示）
- ・「武良茂（水木しげる）の人生」展示
- ・現状同施設よりやや狭くなるため、エントランスホールも含め展示空間として展開できるように配慮

### 4) 多目的プレゼンテーション室

- ・面積：35.1㎡
- ・団体見学者へのオリエンテーション
- ・証言映像の上映
- ・講演会開催
- ・語り部活動
- ・大型ディスプレイ、演台等を用意し、映像シアター、団体見学者説明、講演会その他、多様なイベント等に活用。
- ・通常は35人程度の席数で展開するが、大人数の団体見学を受け入れる場合や、講演会等で多くの参加者を想定するイベント時は、企画展示室との可動壁を開放し、60人程度の席数を確保することができる空間のフレキシビリティを確保。

■ 該当諸室



### Ⅲ.諸室配置計画

#### 2.諸室概要／2階

##### 5) 閉架書庫・資料室

- ・面積：38.7㎡
- ・館所蔵図書資料の閲覧／保管

##### 6) 事務室

- ・面積：92.2㎡
- ・館運営に必要な規模確保と設備の設置
- ・最低10名の作業机
- ・会議&収納スペース

##### 7) 倉庫

- ・倉庫 (A+B)：21.5㎡
- ・館運営に必要な規模確保

##### 8) 収蔵庫の外部施設の確保

- ・現有施設では収蔵庫は施設内3階に確保しているが、  
移転後は温湿度管理が徹底された外部収蔵庫を確保する。

■ 該当諸室



# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／2階

### 1) 鳥瞰イメージ



※①～②：次ページ目線パースアングル位置

導入部は広がりがあり余裕のある空間とし、音声が出るシアターと、静粛が求められる図書閲覧室をできるだけ離して配置した。受付左手に図書閲覧室、右手に企画展示・シアターとすることで、入口や受付からアクセスしやすい配置とした。シアターは可動壁により企画展示と合体・分離が可能なフレキシブルな空間としている。

# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／2階

### 2) 目線イメージ①

EVホールから受付・エントランスホール方向を望む



2階空間は白を基調とし、明るく広く感じる色彩計画とする。天井が低めであることを感じさせないように配慮する。図書閲覧室は、落ち着いて集中できる、明るい木目に囲まれた居心地の良い空間とする。企画展示室は変化する展示物と干渉しないように、シンプルな空間構成とする。多目的プレゼンテーション室は企画展示室と同様に白をベースにしながらも、モニター設置した奥の壁は黒とすることで映像を引き立たせる集中できる空間とする。

# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／2階

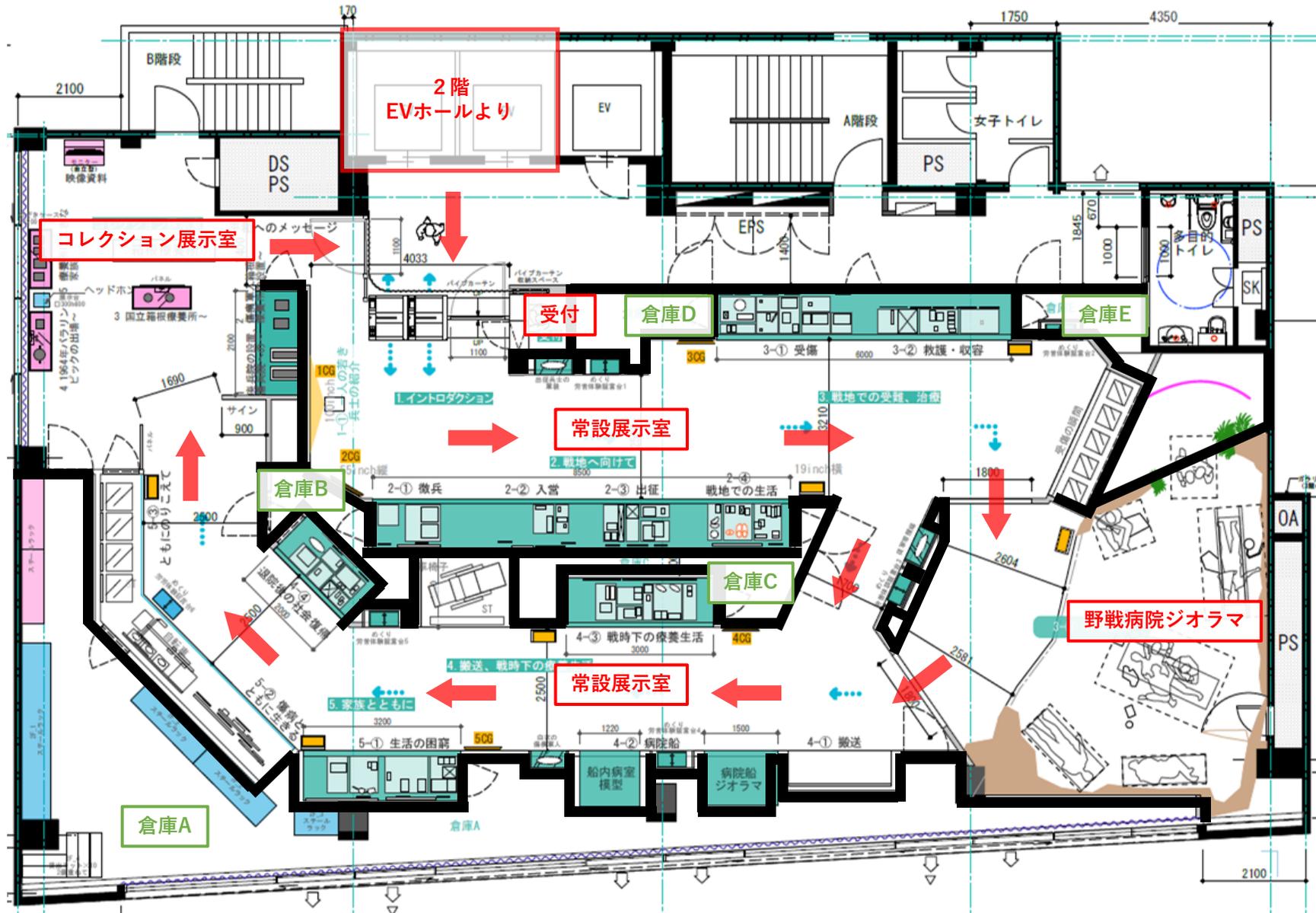
### 2) 目線イメージ②

エントランスホールから企画展示室方向を望む



### Ⅲ.諸室配置計画

#### 1.諸室配置／3階 358.18 m<sup>2</sup> 天井高2500mm



# Ⅲ.諸室配置計画

## 2.諸室概要／3階

### 1) 入口／受付

#### ・入口

- ・幅員：W4000mm
- ・施設2階の出入口
- ・フラッパーゲート設置

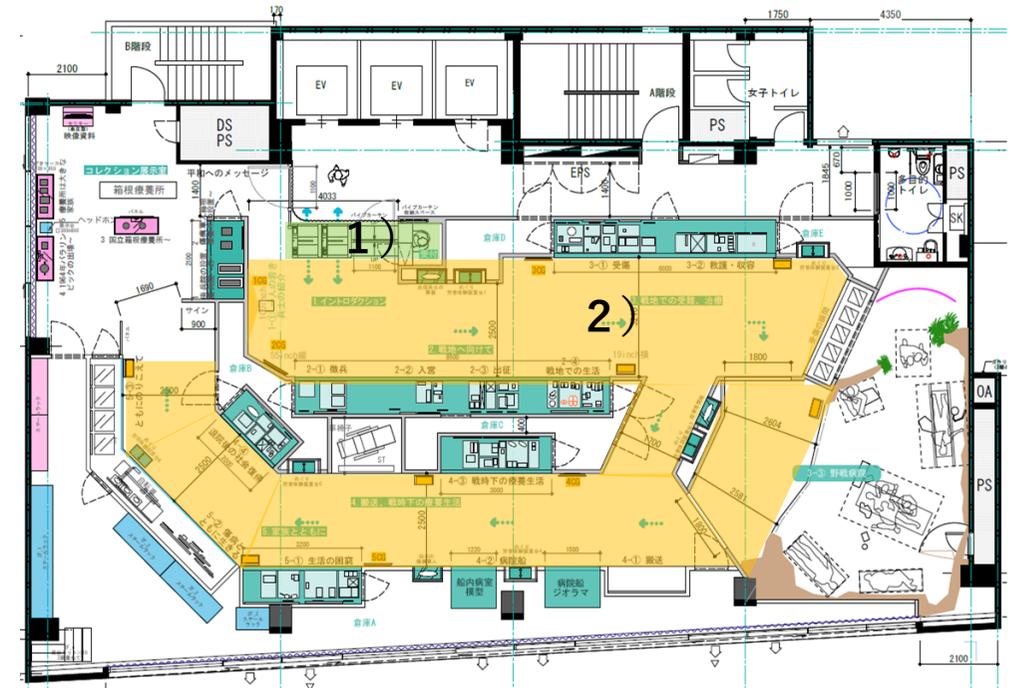
#### ・受付

- ・面積：1.4㎡
- ・施設2階の受付
- ・館運営管理対応
- ・スタッフ1名による受付対応

### 2) 常設展示室

- ・面積：203.1㎡
- ・1兵士の足跡をたどる流れで展示される  
実物／ジオラマ／映像等による戦傷病者の労苦に関する展示

### ■ 該当諸室



# Ⅲ.諸室配置計画

## 2.諸室概要／3階

### 3) コレクション展示室

- ・面積：30.3㎡
- ・館所蔵のコレクションを展示
- ・一定期間で展示内容を更新

### 4) 倉庫

- ・倉庫 (A～E)：75.1㎡  
(有効利用可能面積 25㎡程度)
- ・館運営に必要な規模確保

■ 該当諸室



# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／3階

### 1) 鳥瞰イメージ



※①～④：次ページ目線パースアングル位置

# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／3階

### 2) 目線イメージ①

EVホールから常設展示入口を望む





# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／3階

### 2) 視線イメージ③

野戦病院ジオラマから展示室戦後のコーナーを望む



# Ⅲ.諸室配置計画

## 3.空間デザイン／3階

### 2) 目線イメージ④

戦後のコーナーからコレクション展示室を望む



## IV. 展示設計内容について

## IV. 展示設計内容

### 1. 戦傷病者の労苦の背景情報＝「先の大戦」の情報提示に関する当初の方針と移転計画について

若い世代の理解促進を図る目的とし、先の大戦の概要情報を追加する計画であるため、戦争情報の提示に関する施設計画当初の基本方針と現状、そして移転に伴う計画について確認する。

#### フェーズ1. 基本方針（平成16年3月）

- 戦傷病者の労苦継承事業においてその基本をなすものは「戦傷病者の個人の体験」であり、その体験は、時代背景、環境などが明らかにされなければ、その労苦の本質等が正確に伝えることができない。そのため、戦傷病者等の労苦を明らかにするためには、受傷病及び生活上の労苦をもたらした当時の時代背景を示すことが重要としている。

平成16年3月の調査検討委員会報告書では、背景説明の概念を示すものとして以下を定めている。

- 1) 戦地における労苦
  - (1) 戦争・主要な作戦
  - (2) 軍事医療システム、医療衛生政策
  - (3) 戦傷病者の数と実態
- 2) 復員後の労苦
  - (4) 国の援護システム、援護政策
  - (5) 戦傷病者等の生活実態

この5項目を戦傷病者等の労苦の背景となる説明テーマとしている。

- 戦争・主要な作戦の説明テーマには、以下の戦争・作戦が示されている。  
戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、北清事変、日露戦争、第1次世界大戦、シベリア出兵、満州事変、第1次上海事変、ノモンハン事件、支那事変（盧溝橋事件～宜昌作戦の計15の作戦）、太平洋戦争（中国大陸の7作戦、初期作戦の6作戦、南西方面の6作戦、太平洋方面の13作戦、満州・東北方面の3作戦、海軍の6作戦 計41作戦）

## IV. 展示設計内容

### 1. 戦傷病者の労苦の背景情報＝「先の大戦」の情報提示に関する当初の方針と移転計画について

#### フェーズ2. 基本計画（展示計画）（平成16年6月～平成17年3月）

- ・ 常設展示の最初のプロローグコーナー「戦争と時代」を設け、日清・日露戦争、第1次世界大戦、満州事変、支那事変、張作霖事件、ノモンハン事件、太平洋戦争に関する主要な出来事や関連法令の制定を紹介する計画。
- ・ その後、「開設準備企画委員会」の会合において以下のような指摘がなされる。  
(平成17年1月 第3回委員会)
- ・ 扱う範囲は日中戦争・太平洋戦争を主とし、日露戦争は統計的なものに限ること。  
(平成17年2月 第4回委員会)
- ・ 傷痍軍人という趣旨のもとに、（徴兵制、兵士として戦場へ）日中戦争・太平洋戦争と出征兵士という流れを年表的に出していく。この年表は、当時の新聞記事や映像や兵士の持っている道具などを年代表記と合わせた形で、ビジュアル的に見せる。  
(平成17年3月 第5回委員会)
- ・ 入口から「軍人と徴兵制」、「兵士として戦場へ」、「日中戦争・太平洋戦争」というコーナーを用意する、  
(平成17年3月 第6回委員会)
- ・ 入口から最初のコーナは、R状の壁に沿って時代を通っていきながら年表形式で展開する。

#### フェーズ3. 開設当初の展示（平成18年3月～平成22年1月）

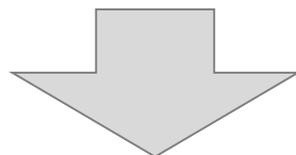
- ・ 開設当初の常設展示室のコーナー配置は、基本的には上記計画の通りであり、入口を入り最初のコーナー「戦争とその時代」には年表が設置されている。年表の項目は、昭和2年の兵役法発布から始まり、満州事変、ノモンハン事件、真珠湾攻撃、終戦から施設開設前年の平成17年日本国際博覧会開催（名古屋）まで続く。なお、年表に「日中戦争」、「太平洋戦争」という表記はない。
- ・ 年表の設置位置は現在と同じであるが、開設当初は、入口から直接年表に続く通路があったため、プロローグコーナーとしての位置付けとして成立していた。

## IV. 展示設計内容

### 1. 戦傷病者の労苦の背景情報＝「先の大戦」の情報提示に関する当初の方針と移転計画について

#### フェーズ4. 現在の展示（平成22年2月～現在）

- 平成22年当初に常設展示室の部分改修が行われ、展示の最後の箱根療養所のコーナーが拡充されたことにより、入口と年表を結ぶ動線が無くなってしまった。従って、この改修以降、本来プロローグコーナーに位置付けられていた年表が、展示室最後のエピローグ展示としてしか見ることができなくなってしまった。



#### フェーズ5. 移転計画

- 展示に関する基本的な方向性は、「移転の基本計画」において示した通り、従前のままとする。
- 入口すぐのプロローグに「先の大戦」の基本情報の提示コーナーを位置づける。
- 若い世代の来館者のために、単純な歴史年表だけでなく、当時の映像資料等を織り込んだ内容とする。
- 各コーナーに設置する映像モニターにも、当時の時代等を理解するための資料映像・画像を適宜組み込む。

## IV.展示設計内容

### 2. しょうけい館移転にあたっての展示の方向性について

#### 展示計画 基本方針

- 1) 若者世代に伝わる展示
- 2) 所蔵資料を十分に活用できる展示
- 3) リアルとバーチャルを機能的に組み合わせた展示手法の開発

#### 展示変更のポイント

##### コーナー分類（展示構成）の再構成

先の大戦に関する情報を持たない来館者でも理解しやすいコーナー分けとコーナー名称等へ変更する。

##### 映像で伝えるイントロダクション・コーナーガイダンス・選択型解説ディスプレイの設置

常設展示の始まりに先の大戦の概要を伝えるイントロダクション、各コーナーの始まりにコーナー概要を伝えるコーナーガイダンス、各コーナーの最後に、来館者が求める情報を提供する選択型解説ディスプレイを設置し、展示の理解を促進する。

##### 団体へのオリエンテーションの強化（2階多目的プレゼンテーション室）

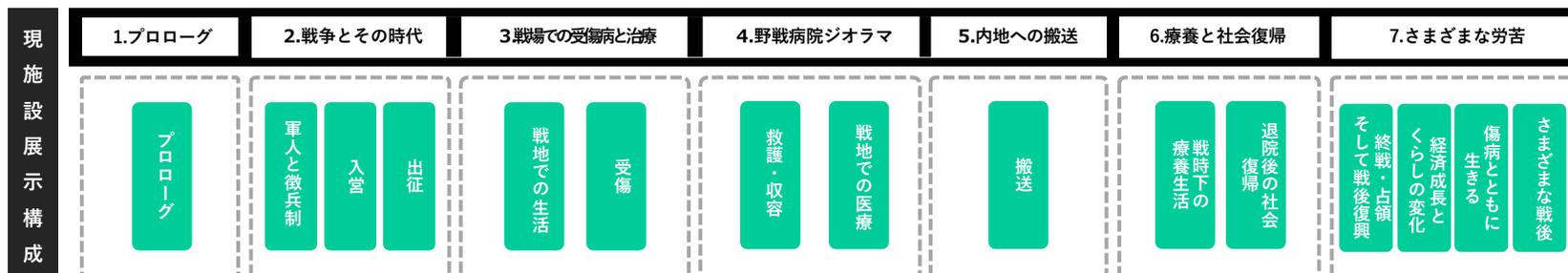
先の大戦や、戦後の社会に関する基本的な情報を習得していない中高生などの団体向けに、本展示の概要とともに先の大戦を中心とする情報を、映像を通して、より詳細に伝える。

##### コレクション展示室の新設

所蔵資料をより有効的に活用するために、常設展や企画展の構成を再検討するとともに、テーマを設けた展示コーナーを新設し、年に2～3回展示替えを行う。

# IV. 展示設計内容

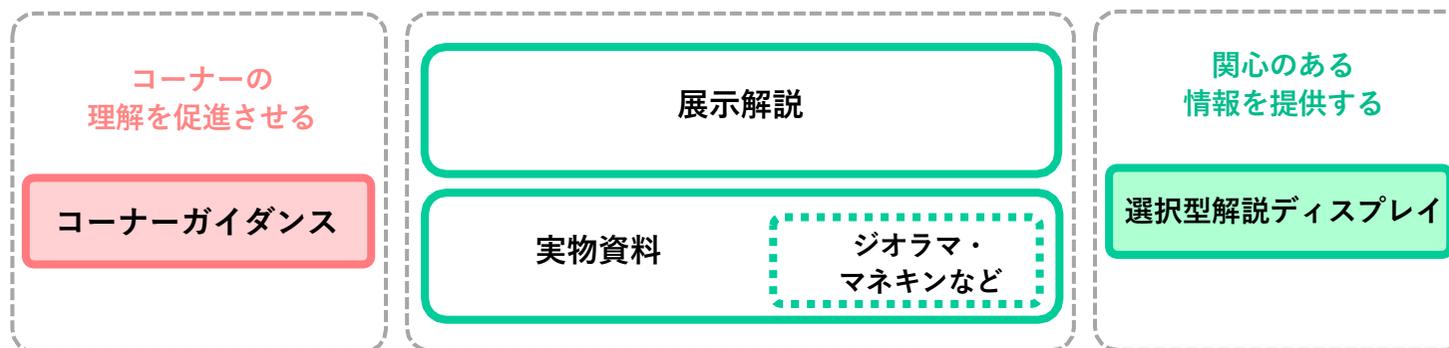
## 3. 常設展示室 基本構成



### ■ 展示内容構成



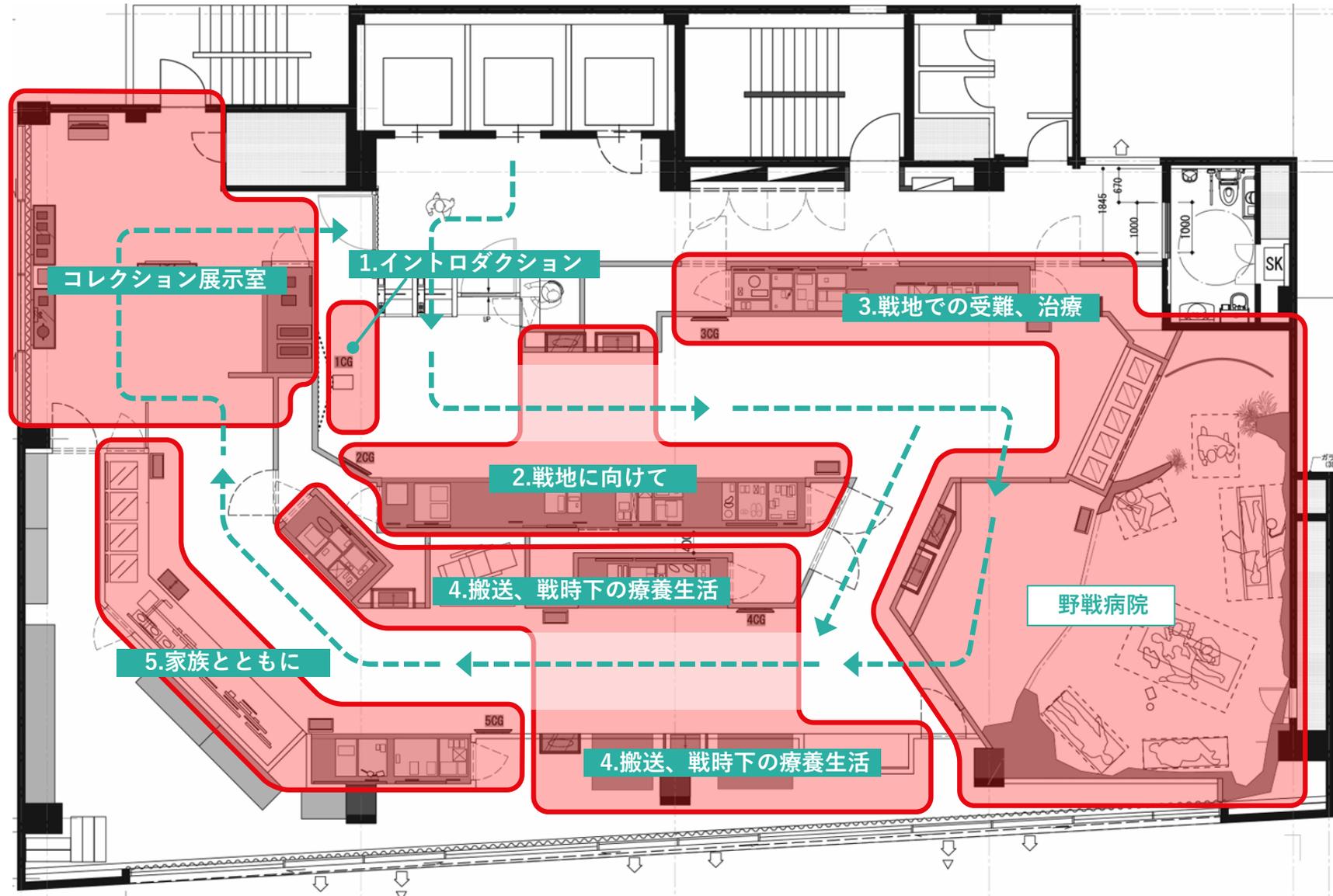
### ■ 展示手法構成（各コーナーでの構成）



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナーについて

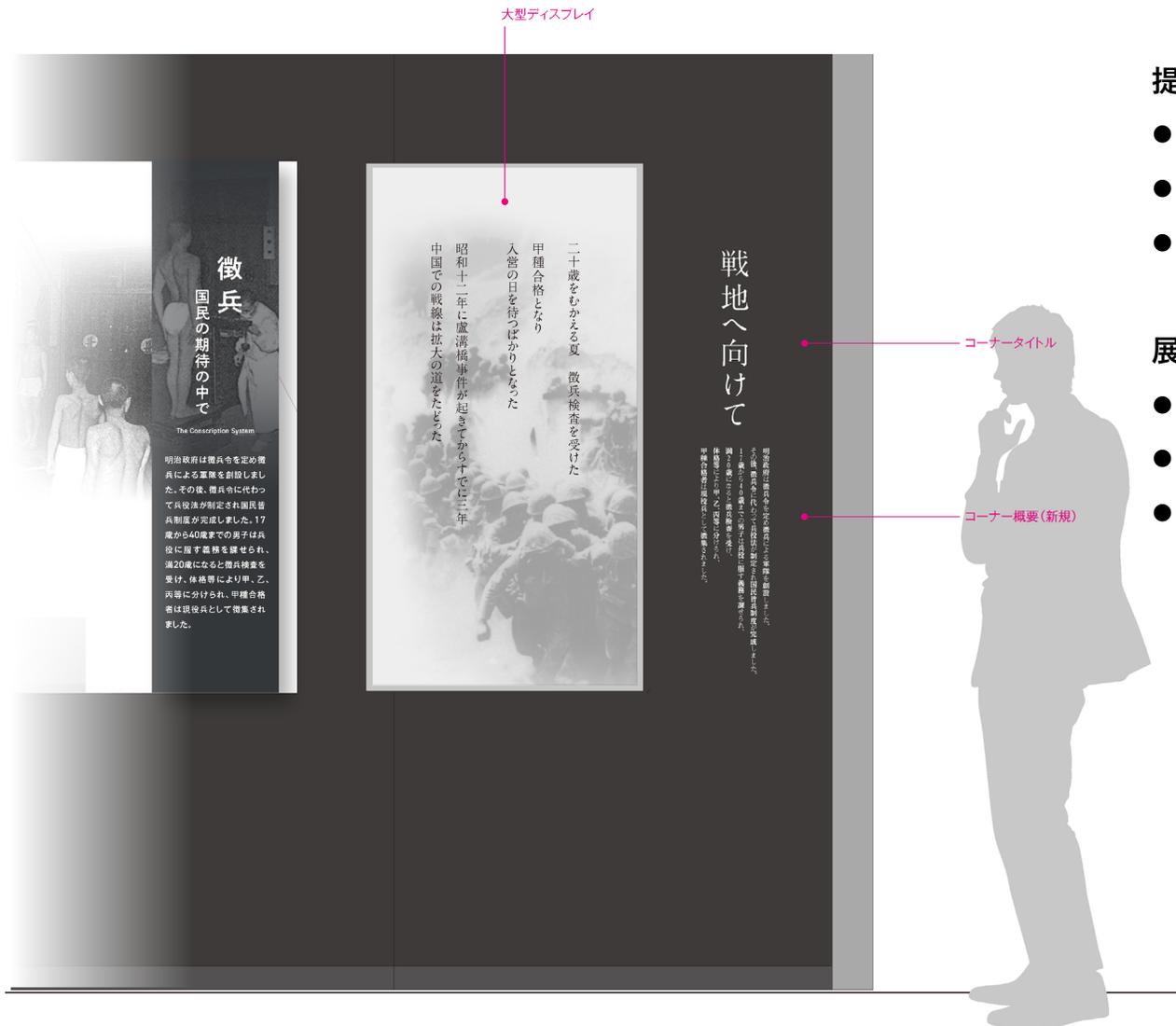
#### ■ 各コーナー配置



# IV. 展示設計内容

## 3. 常設展示室 映像展開 コーナーガイドンス

### ■ 展開例（2. 戦地に向けて）



#### 提供情報

- 各コーナーに関わる「ある兵士の手記」
- 各コーナーに関わる社会背景等
- 各コーナーで扱う展示内容等

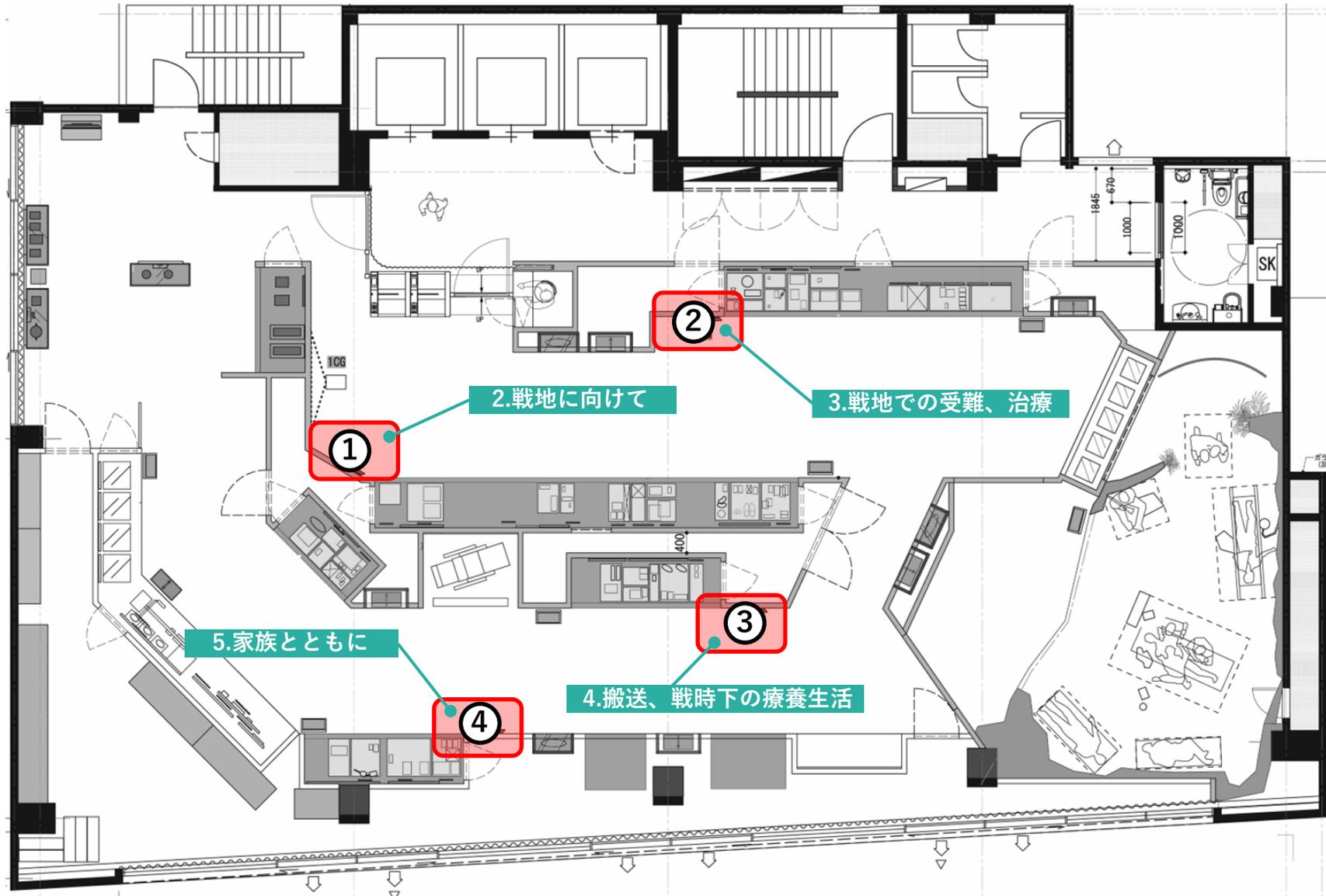
#### 展示手法

- 55インチディスプレイ
- 各コーナーの初めに1台設置
- 30秒～1分程度のループ映像（音声無し）

## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 映像展開 コーナーガイドンス

#### ■ 各コーナーガイドンス配置



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 映像展開 コーナーガイドンス

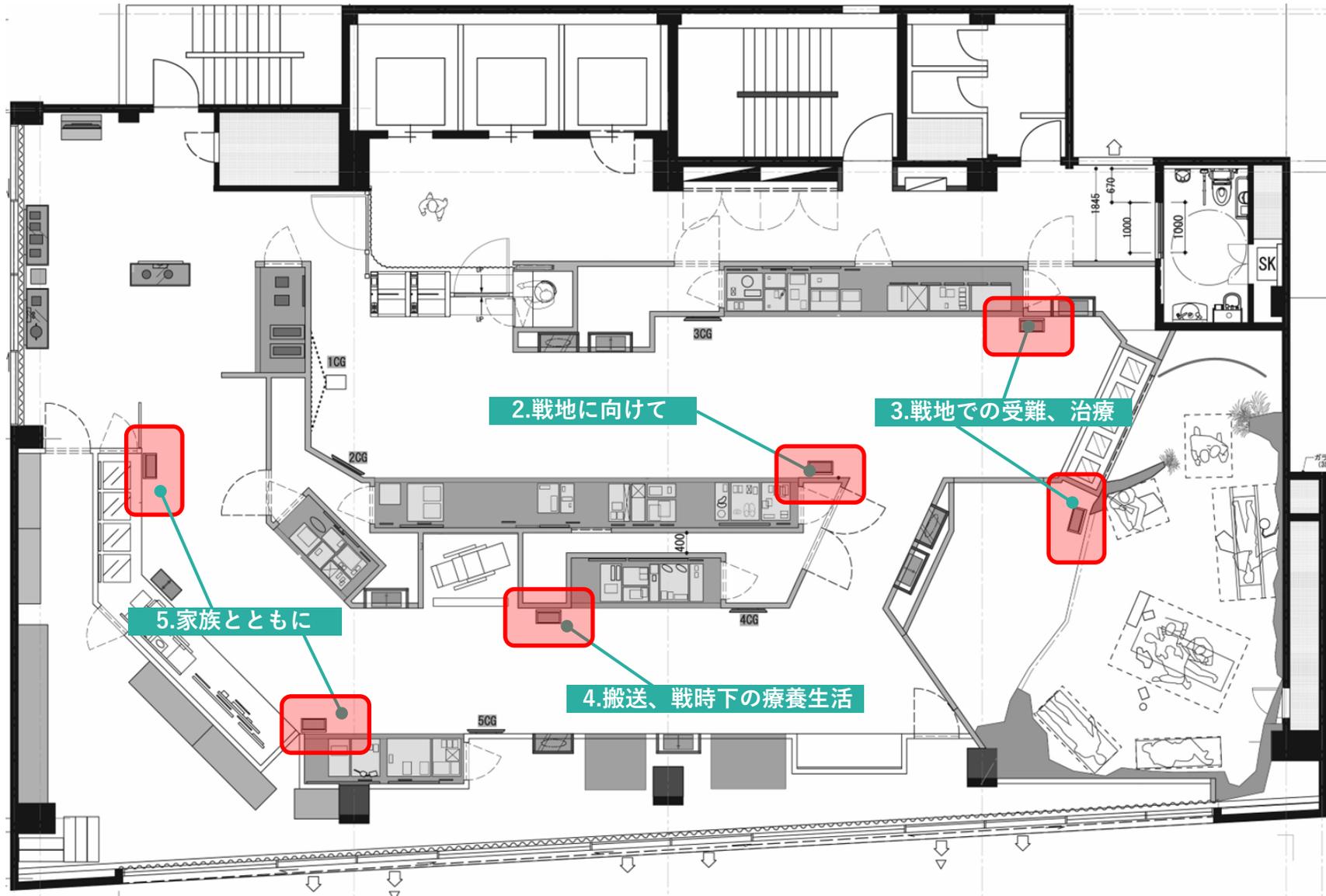
#### ■ 各コーナーガイドンス概要

展示項目	概要
コーナーガイドンス① 2. 戦地に向けて	徴兵から入営、出征、戦地での生活の様子を紹介する。 ある兵士の手記「二十歳をむかえる夏、徴兵検査を受けた。甲種合格となり入営の日を待つばかりとなった。戦地に派遣されると、日本での生活とは異なる過酷な日々が続いた。昼はジャングルに潜み、夜は道なき道をゆく、もう何ヶ月も満足に食べていない」等。
コーナーガイドンス② 3. 戦地での受難、治療	受傷から治療と搬送、野戦病院での治療を紹介する。また、傷病兵の収容体系なども紹介する。 ある兵士の手記「夜襲命令で突撃したその瞬間全身に激痛が走った。野戦病院に移され、受傷した足が悪化し切り落とされることになった。麻酔もなく、身体をおさえつけられて激痛に耐えた」等。
コーナーガイドンス③ 4. 搬送、戦時下の療養生活	陸海軍病院での治療、リハビリの様子、傷痍軍人への援護政策、再就職支援、結婚斡旋等の国や社会の支えを紹介する。 ある兵士の手記「衛生兵に励まされながら、後方にある兵站病院へ搬送され、病院船に乗ることになった。病院船の中は負傷兵でいっぱい。故郷の家族は片足を失った私をどう見るだろうか。そう思う一方で、今も戦地で戦っている戦友の姿が頭をよぎる。再び土を踏んだが、自分の身体は以前のものではない。義足での歩行訓練が辛い」等。
コーナーガイドンス④ 5. 家族とともに	戦傷病者の長い戦後の歩みには、それぞれにさまざまな労苦があり、それは現在に続いている等の状況を紹介する。 ある兵士の手記「昭和二十年八月十五日、戦争が終わった。退院して故郷に戻った。誰もが生きることになった。精一杯だった。国の支えを失った私も、家族を支えるため、傷の痛みにも耐えながらも懸命に働いた。私たちは、癒えることのない傷を抱えながらも家族や良き仲間を支えられ戦後を生き抜いてきた」等。

## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 映像展開 選択型解説ディスプレイ

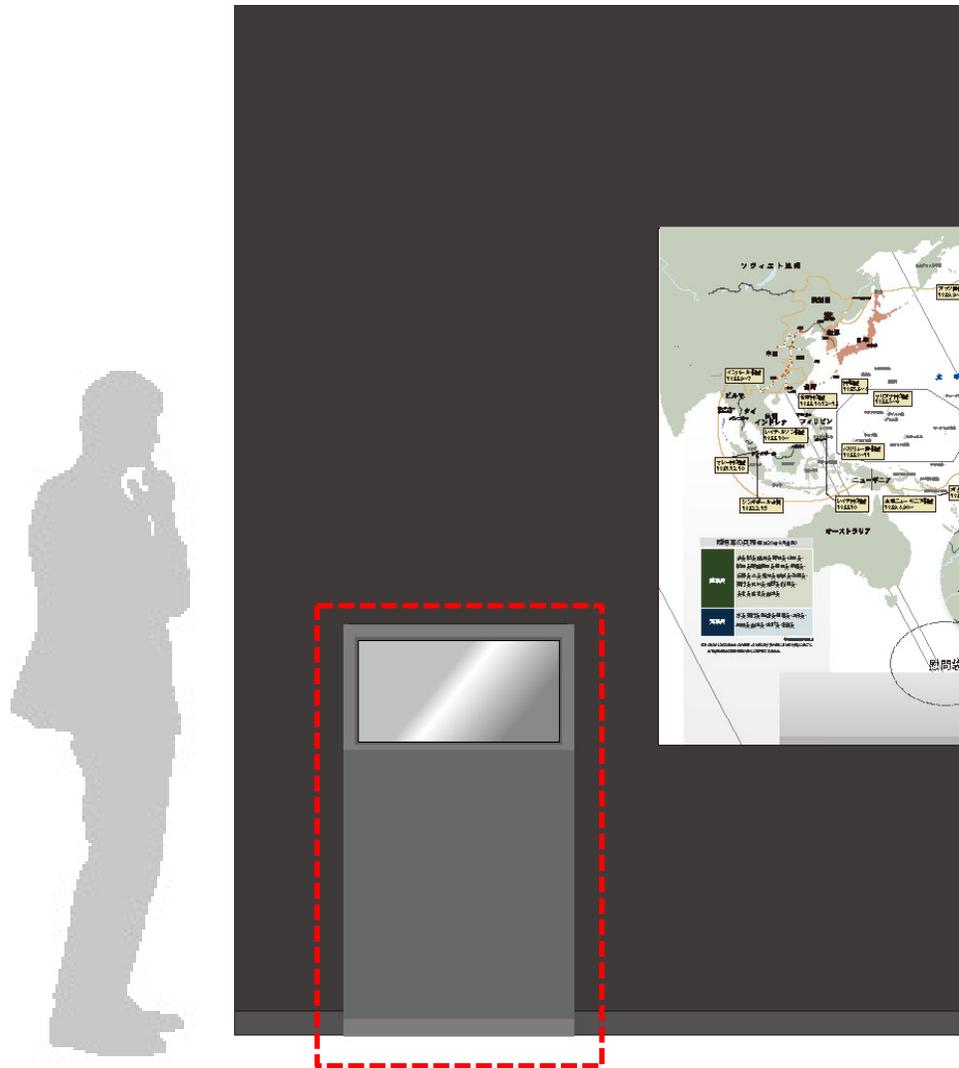
#### ■ 各コーナー選択型解説ディスプレイ配置



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 映像展開 選択型解説ディスプレイ

#### ■ 展開例（2. 戦地に向けて）



#### 提供情報

- 来館者のさらなる興味や関心に答える詳細情報
- 各コーナーの資料展示では解説しきれない情報

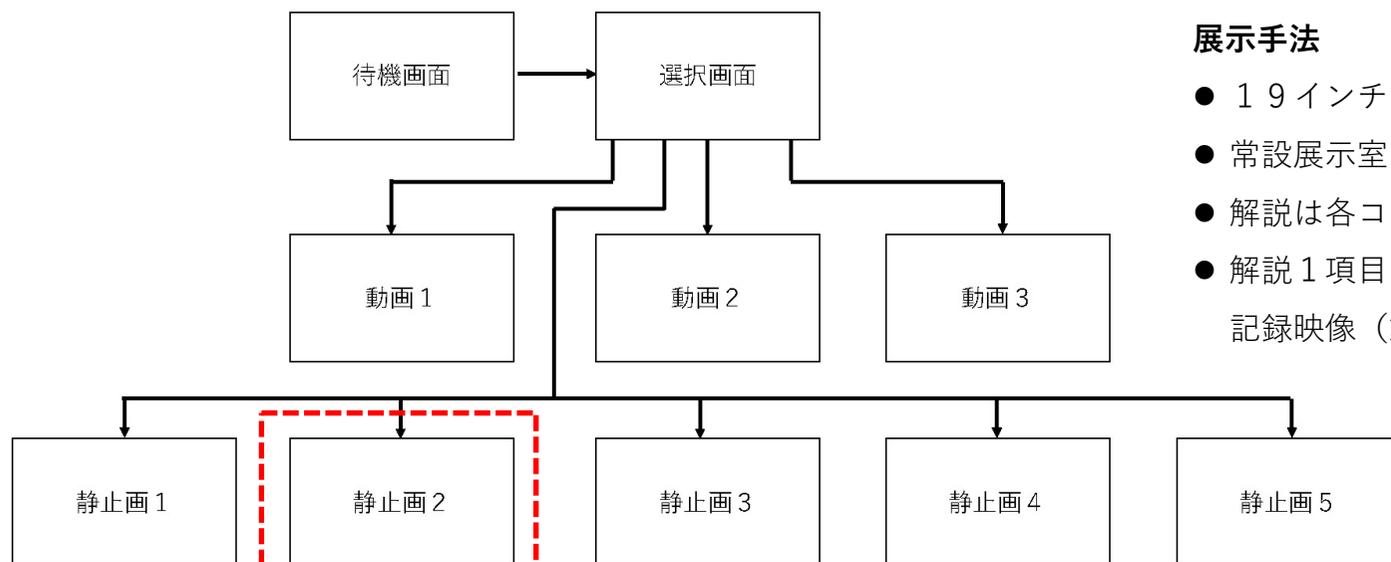
#### 展示手法

- 19インチタッチパネルディスプレイ
- 常設展示室内に6か所設置
- 解説は各コーナーごとに10項目以内
- 解説1項目1画面、画像情報と100～150文字程度の解説文、記録映像（動画）、写真・静止画、図表等で構成

# IV. 展示設計内容

## 3. 常設展示室 映像展開 選択型解説ディスプレイ

### ■ 選択型解説ディスプレイ画面構成イメージ

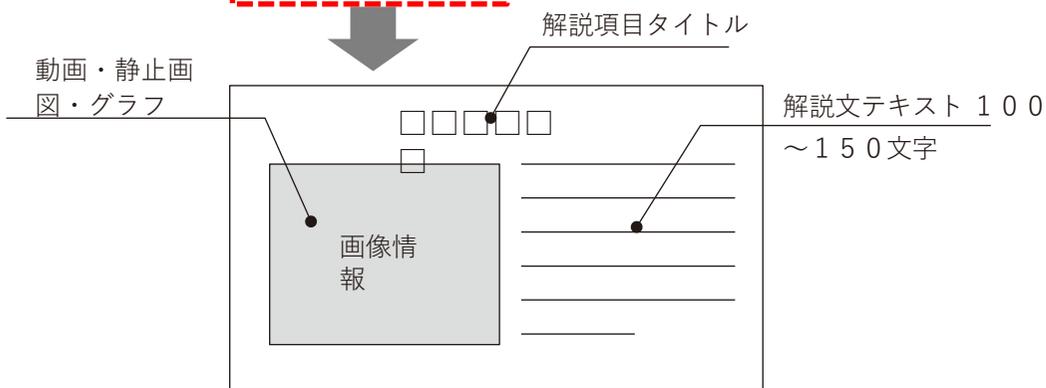


### 提供情報

- 来館者のさらなる興味や関心に答える詳細情報
- 各コーナーの資料展示では解説しきれない情報

### 展示手法

- 19インチタッチパネルディスプレイ
- 常設展示室内に6台設置
- 解説は各コーナーごとに10項目以内
- 解説1項目1画面、画像情報と100~150文字程度の解説文、記録映像（動画）、写真・静止画、図表などで構成



(画面構成イメージ)

(タッチパネルイメージ)



# IV. 展示設計内容

## 3. 常設展示室 コーナー展開：1. イントロダクション

### ■ 展示手法

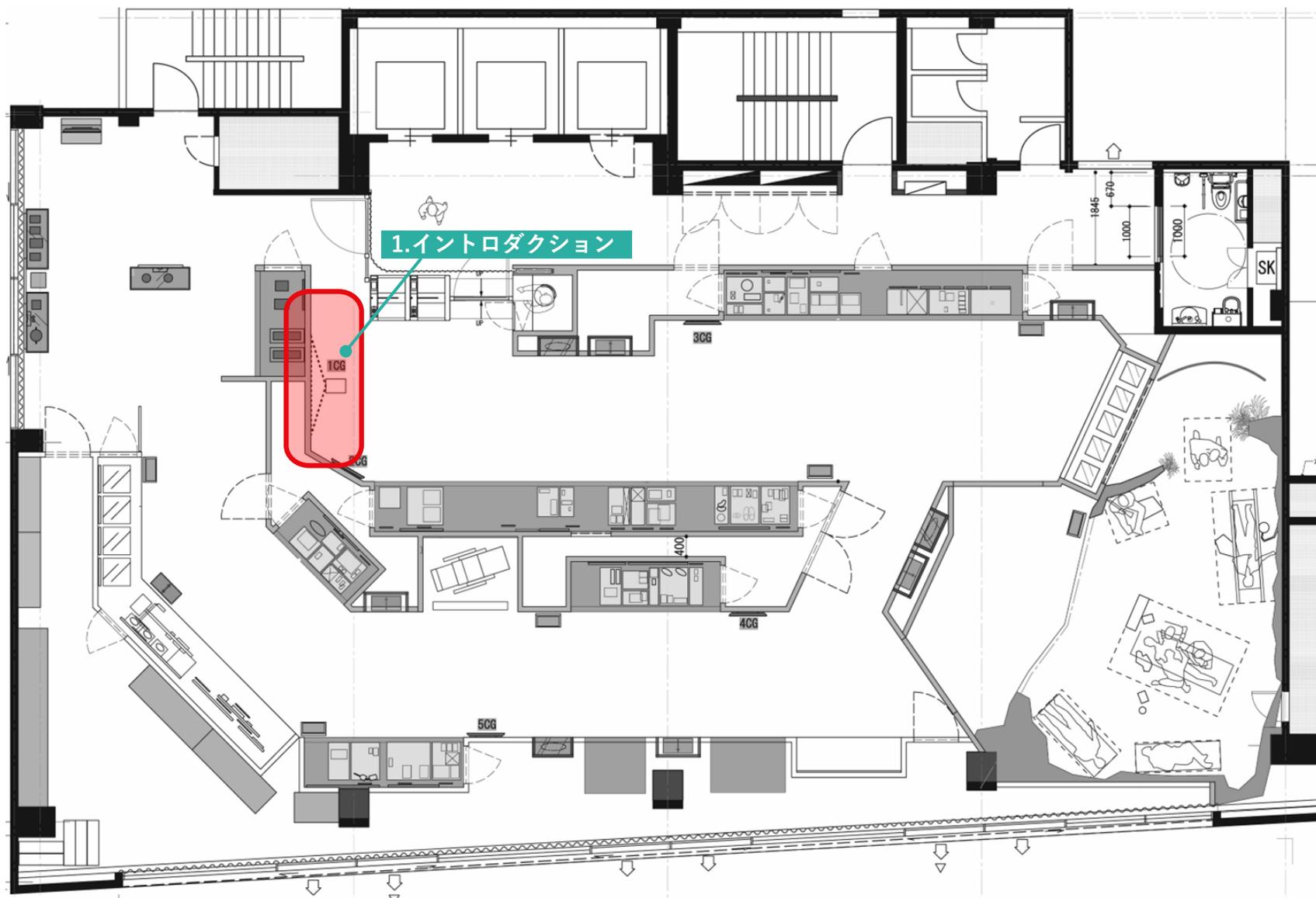
- 100インチプロジェクター
- 映像は、3分程度 ループ映像（音声無し）



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：1. イントロダクション

#### ■ コーナー位置



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：1. イントロダクション

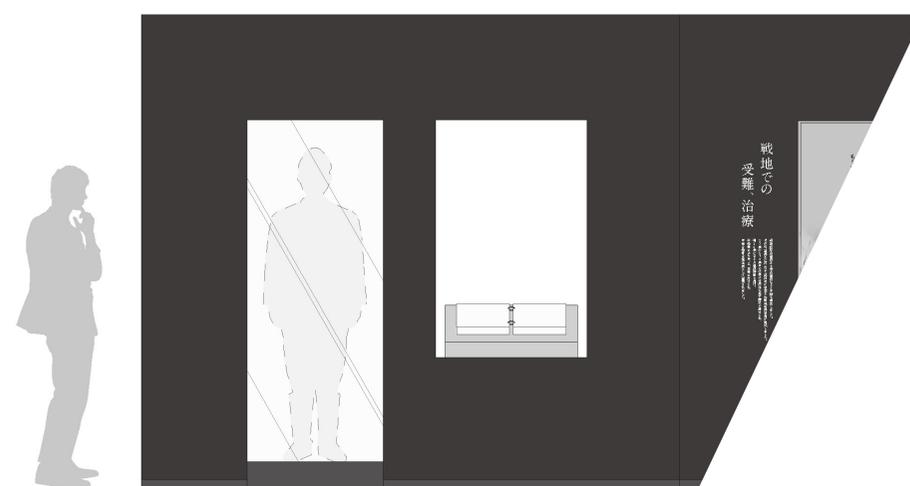
#### ■ 展示項目と概要

展示項目	概要
イントロダクション 傷ついた若き兵士の 物語	<p>明治期から昭和期にかけて、日本はいくつもの戦争を経験してきた。 本イントロダクションでは、満洲事変、日中戦争、太平洋戦争等「先の大戦」に関する戦争の概要と、国民と戦争に関する情報を伝える。</p> <p>戦時中、私たちは国のために働くことが求められた。多くの男性が兵士として戦争を経験し、戦争末期になると学生も兵士として動員された。勤労働員として中学生や若い女性も軍需工場で働き、既婚女性は健康な男子を産み育てることが求められた。</p> <p>兵士としての戦場の経験、受傷から治療、そして傷病を抱えながら生きてきた戦傷病者の姿を通して、「かつて日本において戦争があった」という過去で終わらせるのではなく、今日に至るまで世界では戦争があり、今も傷つきながら生きている人たちがいるということを、考えられるような構成にする。</p>

# IV.展示設計内容

## 3. 常設展示室 コーナー展開：2.戦地に向けて

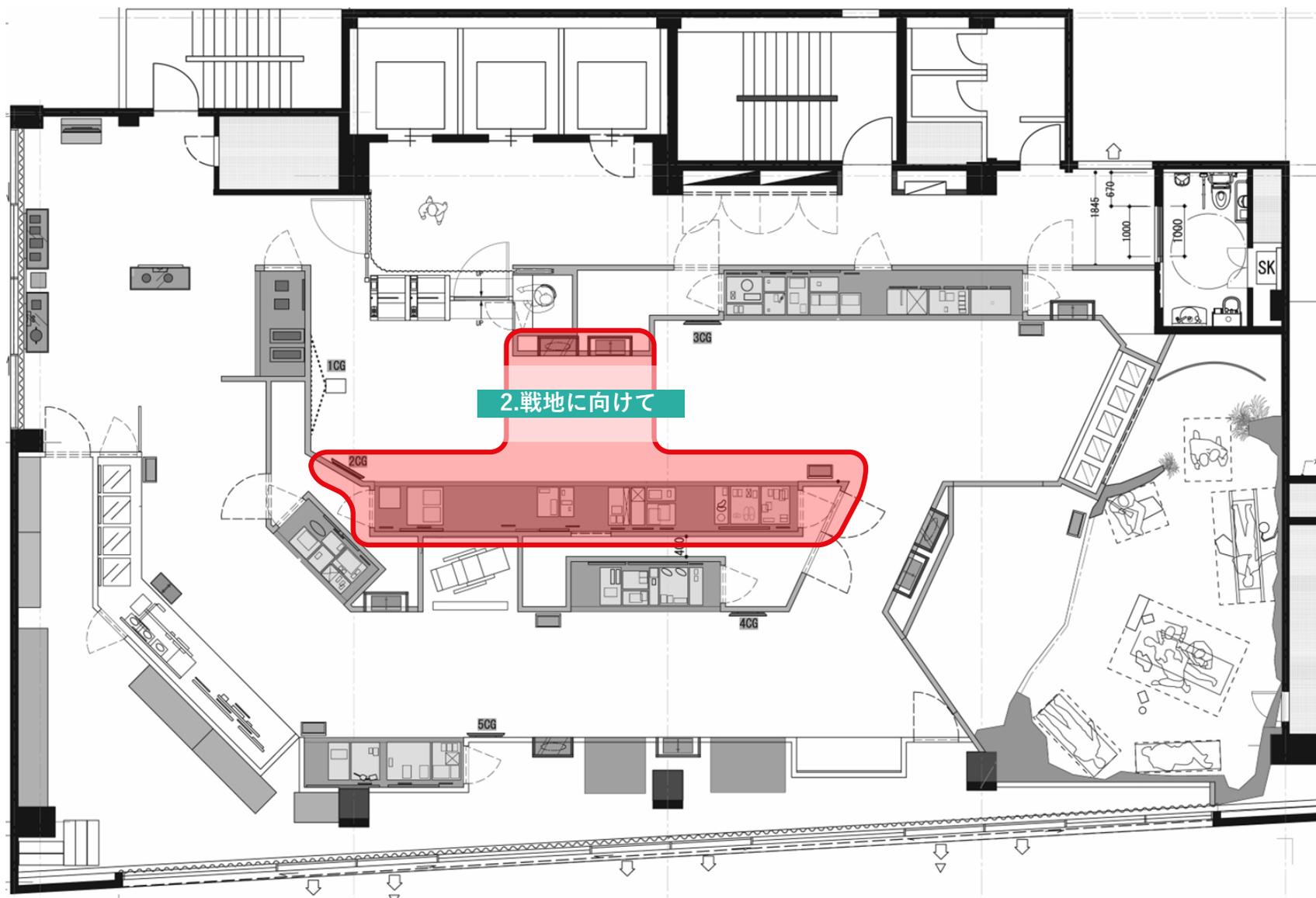
### ■ コーナー展示立面



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：2.戦地に向けて

#### ■ コーナー位置



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：2. 戦地に向けて

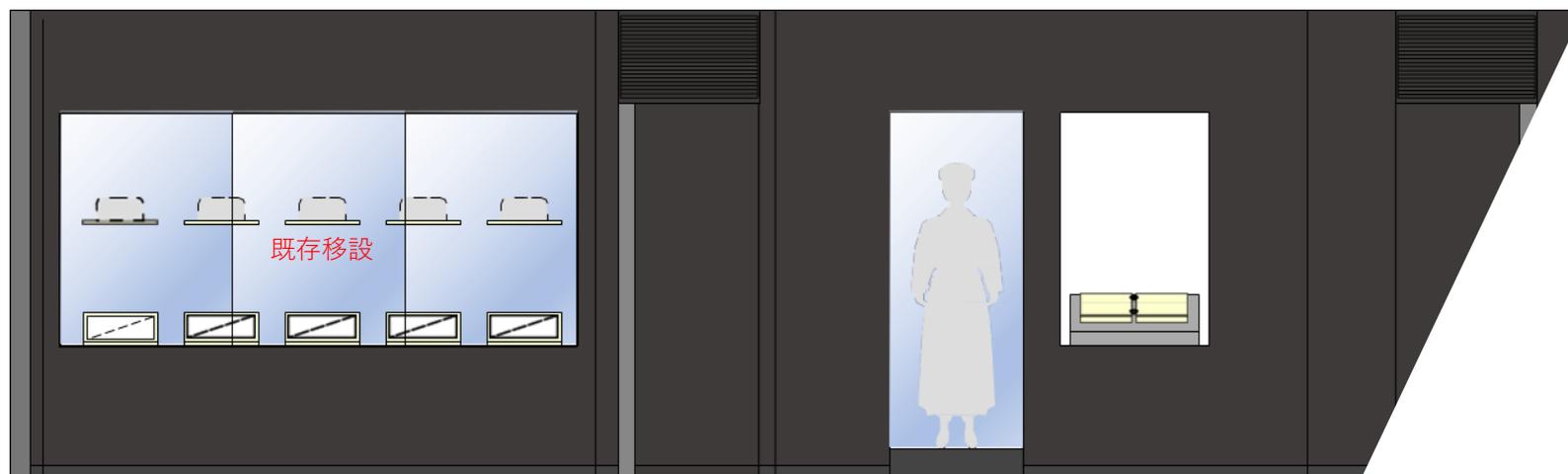
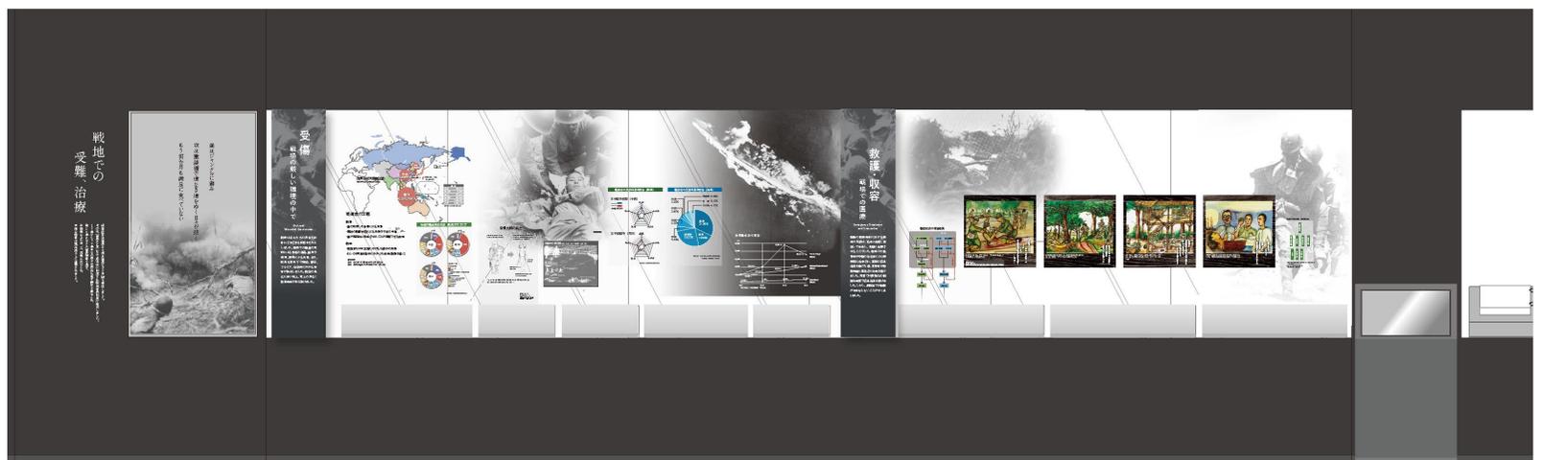
#### ■ 展示項目と概要

展示項目	概要
徴兵	徴兵検査の写真、甲種合格の表彰状、などの資料を展示し、本人にとっての徴兵検査の意味合い、世間の甲種合格の受け止め方等を感じてもらう。 「徴兵検査の概要」、「徴兵検査受検人員と現役徴集兵の割合」等の解説を通して、大戦末期には徴兵検査の年齢や基準が引き下げられ、徴集人数が増えていったことなどを知ってもらう。
入営	入営時の記念写真や、寄せ書きの入った日章旗、銭別帳、等の資料を展示し、普通の暮らしから軍隊へ入っていく様子や、日記等の資料を通して軍隊生活の様子を感じてもらう。「兵役制度の概要」（兵役期間）、「軍隊の兵種」等の解説を通して、軍隊組織の概要や、戦時体制下で臨時召集される予備役等の概要を知ってもらう。
出征	出征兵士を見送る写真や、遺言状、遺髪（爪）、千人針、などの資料を展示し、兵士として戦地に向かう様子や、覚悟を決めた本人の思いを感じてもらう。 「徴兵・志願兵・召集兵数」、軍服・装備品等の解説を通して、出征時の状況を知ってもらう。
戦地での生活	戦地の様子を記した日記や写真、軍事郵便葉書、ヤシの実の水筒、等の資料を展示し、食料や水の確保の厳しさや、内地とつながる手紙や慰問袋が兵士たちの慰めであったことを感じてもらう。 「陸海軍の兵種と役割」、日本軍の最大進出域（地図）などの解説を通して、戦域の拡大、日本からの距離などを知ってもらう。

## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：3.戦地での受難、治療

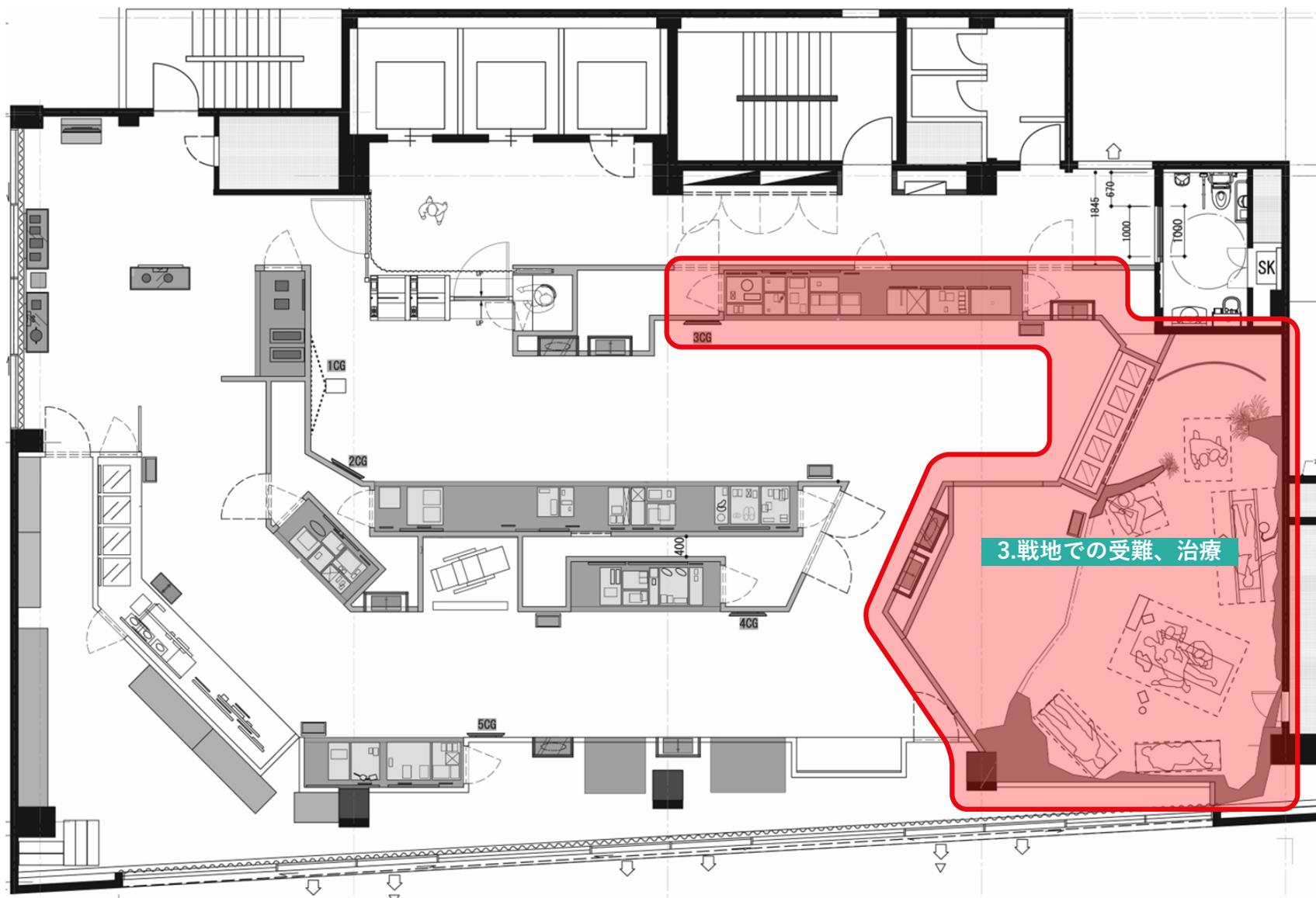
#### ■ コーナー展示立面



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：3.戦地での受難、治療

#### ■ コーナー位置



## IV.展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：3.戦地での受難、治療

#### ■ 展示項目と概要

展示項目	概要
受傷	受傷の様子を描いたスケッチや、止血に用いた日章旗、摘出弾、診断書、等の資料を展示し、受傷時の状況を感じてもらう。 戦傷・戦病の解説、戦傷病の発生件数や割合等の内訳、「陸軍地域別損耗統計」、等の解説を通して、戦地での具体的な受傷病の状況を知ってもらう。
受傷の瞬間	軍帽、メガネ、煙草ケース、鞆、軍長靴などの、穴の空いた資料から受傷の瞬間を想像してもらう。
救護・収容	戦場での救護体験スケッチや、包帯、薬品（容器）等の資料を展示し、衛生兵による処置や、負傷兵も自ら応急処置を行っていたこと等、戦場での救護の様子を感じてもらう。 「戦傷病者の収容体系」、「陸軍の衛生機関組織」、などの解説を通して、軍の治療体制や実際の救護や治療の状況を知ってもらう。
野戦病院	野戦病院のジオラマ。衛生兵に支えられて歩く負傷兵、救護された負傷兵、麻酔なしでの切断手術、赤痢やガス壊疽により重体となり生死をさまよう兵士の各人形から、実際の野戦病院の状況を見て感じてもらう。

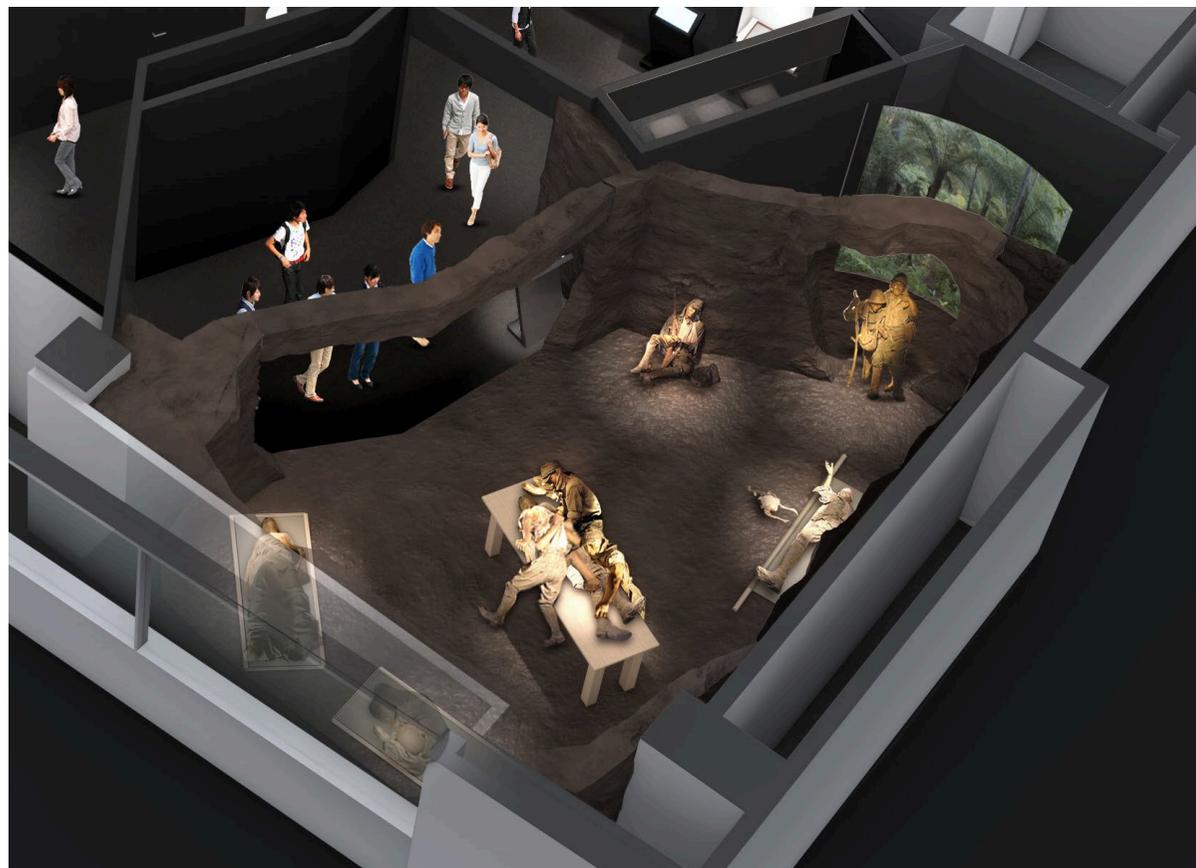
## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：3.戦地での受難、治療 【野戦病院】

#### ■ 野戦病院の展示

- 現施設の兵士の人形は、5体すべて移転し着色の補正（退色部分の修正）を行う。
- 野戦病院ジオラマの内部空間は、移転施設の空間に合わせた形状になるため、兵士の人形の配置を変更し、ナレーション・演出によりわかりやすいものにする。
- 迂回路を設ける。

現施設ジオラマ

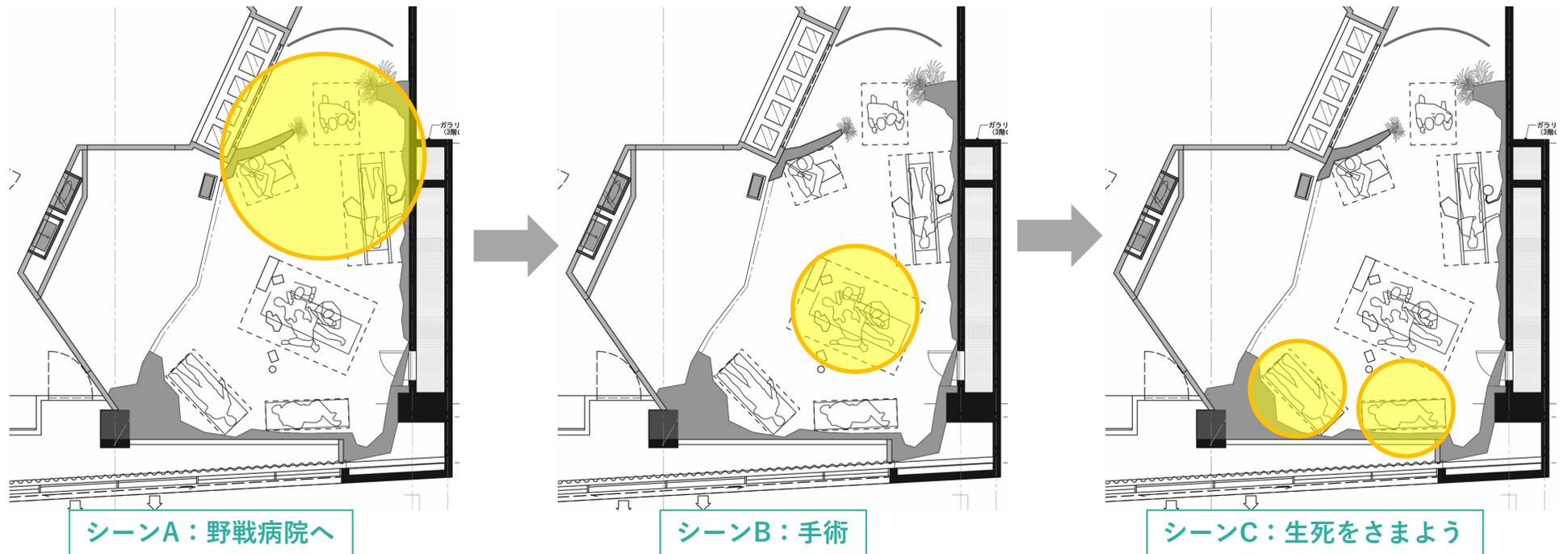


## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：3.戦地での受難、治療 【野戦病院】

#### ■ 野戦病院ジオラマ演出

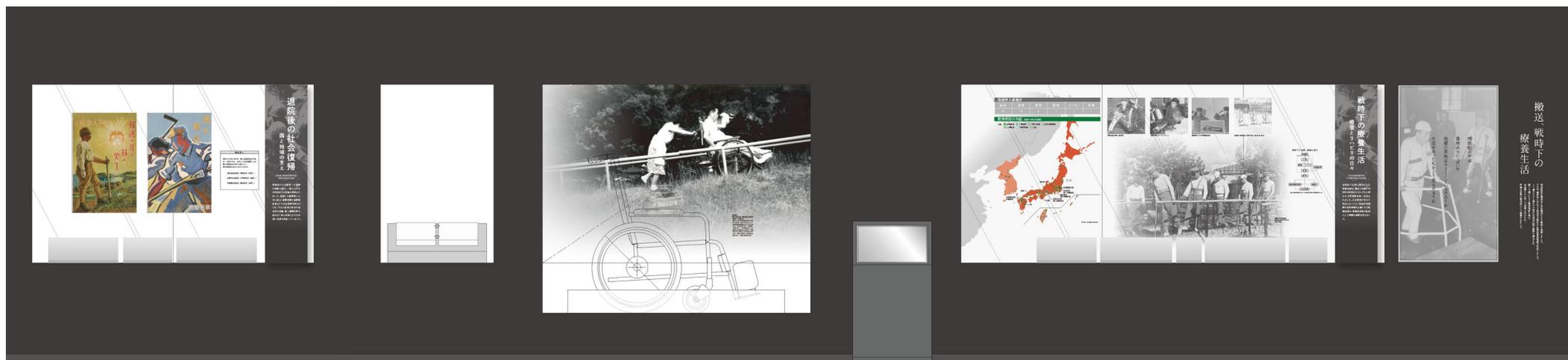
- ① 待機状態では展示エリア内はある程度の明るさを想定
- ② スイッチを押すと演出スタート。ジオラマ内が暗くなる
- ③ シーンAにスポットライト点灯→ナレーションが流れる→静→消灯
- ④ シーンBにスポットライト点灯→ナレーションが流れる→静→消灯
- ⑤ シーンCにスポットライト点灯→ナレーションが流れる→静→消灯
- ⑥ ジオラマ内が暗転
- ⑦ 待機状態に戻る



# IV. 展示設計内容

## 4. 常設展示室 コーナー展開：4. 搬送、戦時下の療養生活

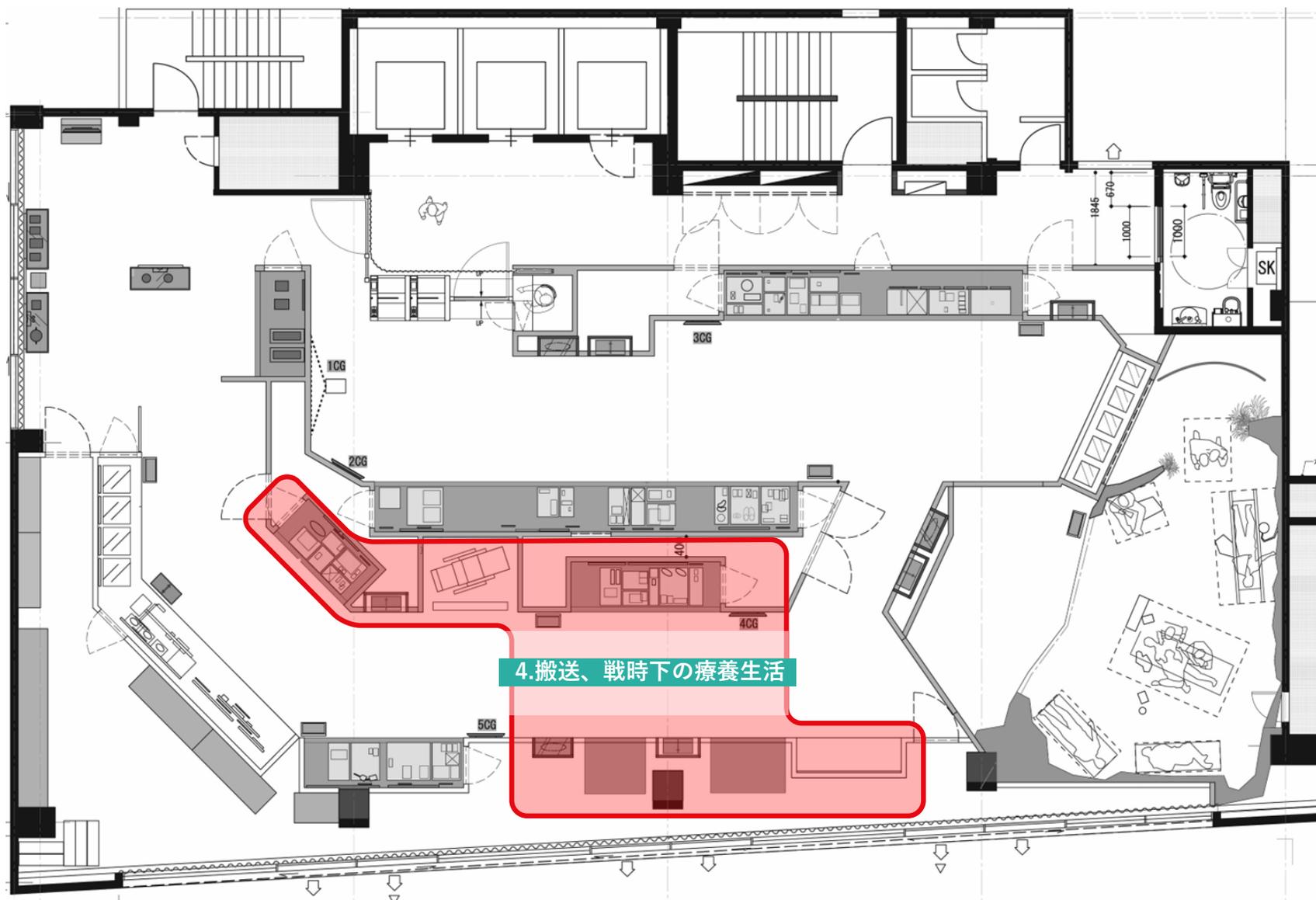
### ■ コーナーの展示立面



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：4. 搬送、戦時下の療養生活

#### ■ コーナー位置



## IV.展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：4. 搬送、戦時下の療養生活

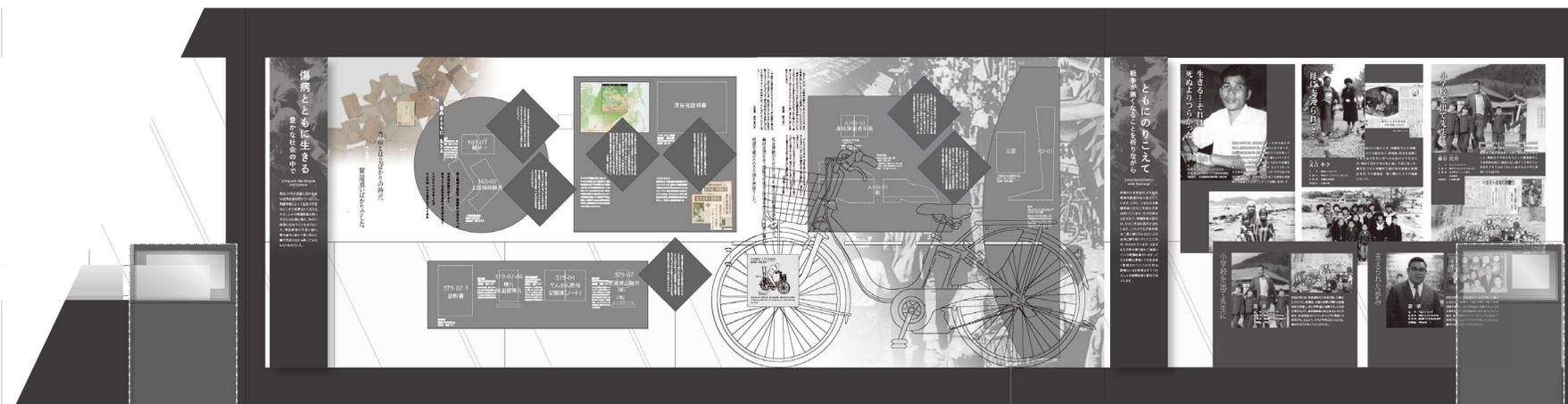
#### ■ 展示項目と概要

展示項目	概要
搬送	「受傷後の足取り」（5名の年表）を通して、受傷時期や受傷病の程度により、原隊復帰や内地還送、終戦後の捕虜・抑留中の受傷病等、履歴の事例が多様であったことを知ってもらう。搬送手段（手術用自動車、94式患者自動車、病院列車など）の写真、兵站病院や外地の陸軍病院の概要等の解説を通し、後方の医療機関や移動の方法等を知ってもらう。
病院船	病院船の模型（海を航行する様子）、船内の手術室・病室再現の模型と当時の映像等を通して、病院船の役割と戦時中の航海の状況等を感じてもらう。 病院船氷川丸航路図、艀装などの解説を通して、病院船の概要を知ってもらう。
戦時下の療養生活	義足での歩行訓練、職業訓練等の写真や、恩賜の義肢、下賜御沙汰書、等の資料を展示し、療養生活の様子や社会復帰のための訓練の様子や状況を感じてもらう。 傷痍軍人療養所の一覧等の解説を通して、傷病別に傷痍軍人の治療と療養の体制や制度を知ってもらう。また、脊髄損傷者を受け入れた箱根療養所の箱根式車いす等を展示し、療養所の生活を感じてもらう。
退院後の社会復帰	「援護の光に輝く更生」のポスター、軍人傷痍記章、戦傷奉公杖、結婚写真などの資料を展示し、社会復帰後の傷痍軍人について状況を感じてもらう。 各種恩給と障害程度の一覧、優遇政策などの解説や、傷痍軍人の結婚斡旋事業の解説を通して、傷痍軍人の社会生活の様子や、妻の労苦のはじまり等を知ってもらう。

# IV. 展示設計内容

## 3. 常設展示室 コーナー展開：5. 家族とともに

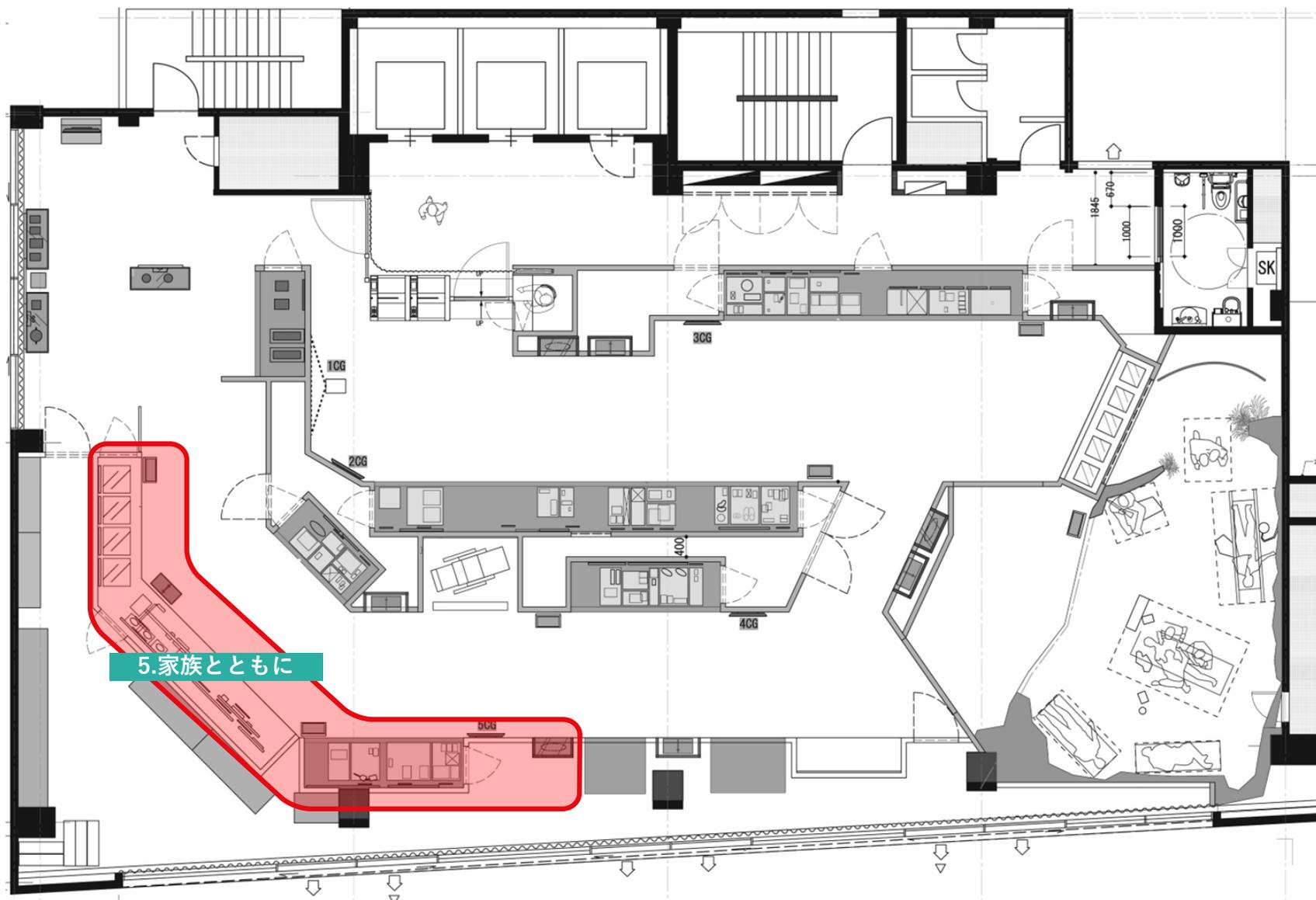
### ■ コーナーの展示立面



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：5. 家族とともに

#### ■ コーナー位置



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：5. 家族とともに

#### ■ 展示項目と概要

展示項目	概要
生活の困窮	<p>街頭募金の写真や、戦後の混乱により恩給支給の遅れを知らせる通知、診断書、等の資料を展示し、国の体制が変わったことや、恩給停止に伴って経済的に苦しい状況となったことを感じてもらう。</p> <p>「軍人恩給の廃止を命じる総司令部覚書」、「白衣募金の実態調査の結果」等の解説を通して、恩給が廃止され、傷痍軍人への保護もなくなったこと等を知ってもらう。義肢、片足踏みペダル自転車など資料を展示し、不自由な身体でも懸命に働いたこと等を感じてもらう。</p> <p>対日講和条約の発効、戦傷病者戦没者遺族等援護法の制定、軍人恩給の復活などの解説を通して、戦後の援護政策が進められたことや、高度経済成長期に入り社会が安定していく中でも傷病が原因で、戦傷病者の就職や生活が不安定であったことを紹介する。</p>
傷病とともに生きる	<p>上肢補助器具、診断書、発作記録簿などの資料を展示し、戦後20年以上が過ぎても、後遺症や後発障害に苦しむ姿、亡き戦友への思いが消えないこと等を感じてもらう。</p> <p>切断やマラリアによる後遺症の事例と解説、シベリア珪肺等後発障害の事例と解説等を通して、長い月日が過ぎても労苦は続いていることを知ってもらう。</p>
ともにのりこえて	<p>戦傷病者は、戦中・戦後を通して労苦を克服するために努力を重ねてきた。その傍らには、いつも妻や家族、仲間の存在があった。最後に、家族や仕事仲間、友人らとの写真や本人の言葉等を通して、妻や家族の労苦、傷病をのり越えるための工夫と努力、戦傷病者同士の支え合い、自立して生きていることへの思いを感じてもらう。</p> <p>「戦傷病者手帳交付件数」のグラフと解説を通して、存命の戦傷病者の数は減少しているが、今も平和を願い、戦争体験を伝えるために手記などを執筆している戦傷病者の存在を知ってもらう。</p> <p>常設展示出口に、戦傷病者と家族の言葉である「平和へのメッセージ」を掲示する。</p>

## IV. 展示設計内容

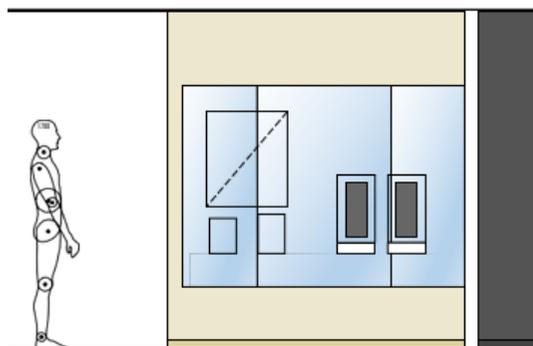
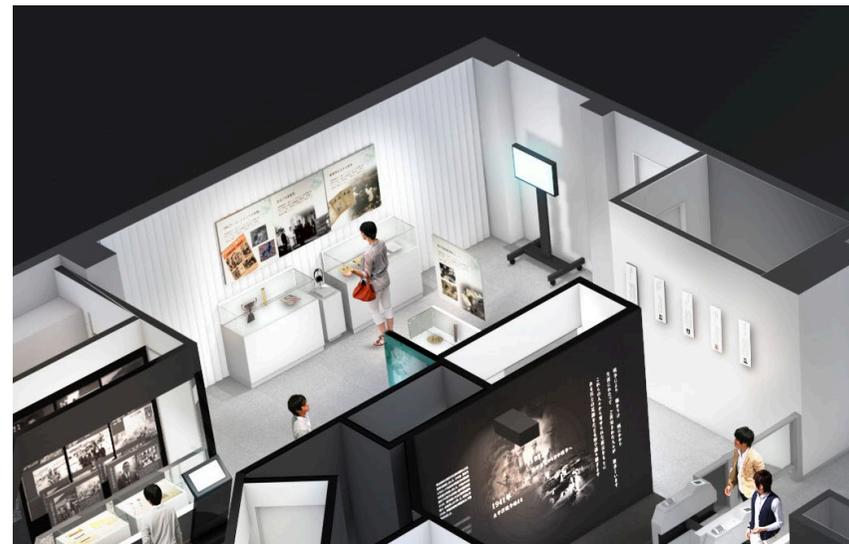
### 3. 常設展示室 コーナー展開：コレクション展示室

#### 1) コレクション展示室の機能

- 所蔵資料の公開、活用を促進し、展示替えの容易なケースやディスプレイを配置。
- テーマを設け、年に2～3回展示替えを行う。
- 施設移転に伴う常設展示室の面積縮小で、現在の1階常設展示「援護のあゆみ」や、2階常設展示「箱根療養所」等、展示しきれない内容をカバー。

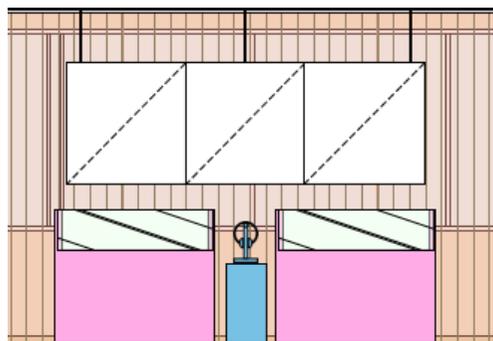
#### 2) 展示ケースの構成

- より多くの所蔵資料を展示でき、かつ来館者が見やすいケース、展示台、展示ケースを組み合わせ機能性を高める。



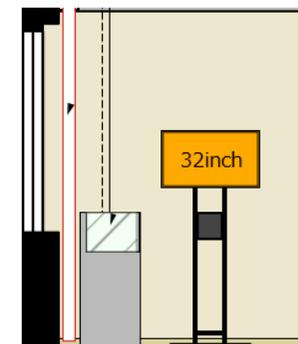
前面ガラスケース

竹細工や義肢など、大～中型の資料の展示にも適している。



のぞき型ケース

手紙、手記（文書資料）や写真、など、小型資料の展示に適している。



32インチモニター（横設置）

テーマに関連する収蔵資料の映像や、戦傷病者の証言映像を再生し、展示内容を理解してもらうことを促す。



## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：コレクション展示室

#### 3) 展示テーマの例

##### 箱根療養所

---

脊髄損傷者を専門に受け入れた箱根療養所を紹介する。  
入所者は常時医療ケアが必要だったため、社会復帰や就労が困難であったが、本人と家族がひとつの大きな家族となり支え合って生活を送っていたことを、入所者の作った竹製品、生活記録簿などを通して紹介する。  
また、パラリンピック関連資料、皇太子・同妃殿下のご来訪記念トロフィー等を通して、1964年以降の生活意欲の向上の影響等も紹介する。



花瓶敷き



文芸雑誌『函嶺』



トロフィー

##### 義肢

---

義手、義足等を紹介する。  
戦場で身体の一部を失った戦傷病者は、治療が終わると、社会復帰のためのリハビリを行った。義肢を身につけて、立つ、ものを掴むことから始まり、歩く、握る、義肢で生活をし、働く、これらの行為が如何に難しいものであったのか、使用者それぞれの体験や思いと共に紹介する。



御沙汰書



上腕義手

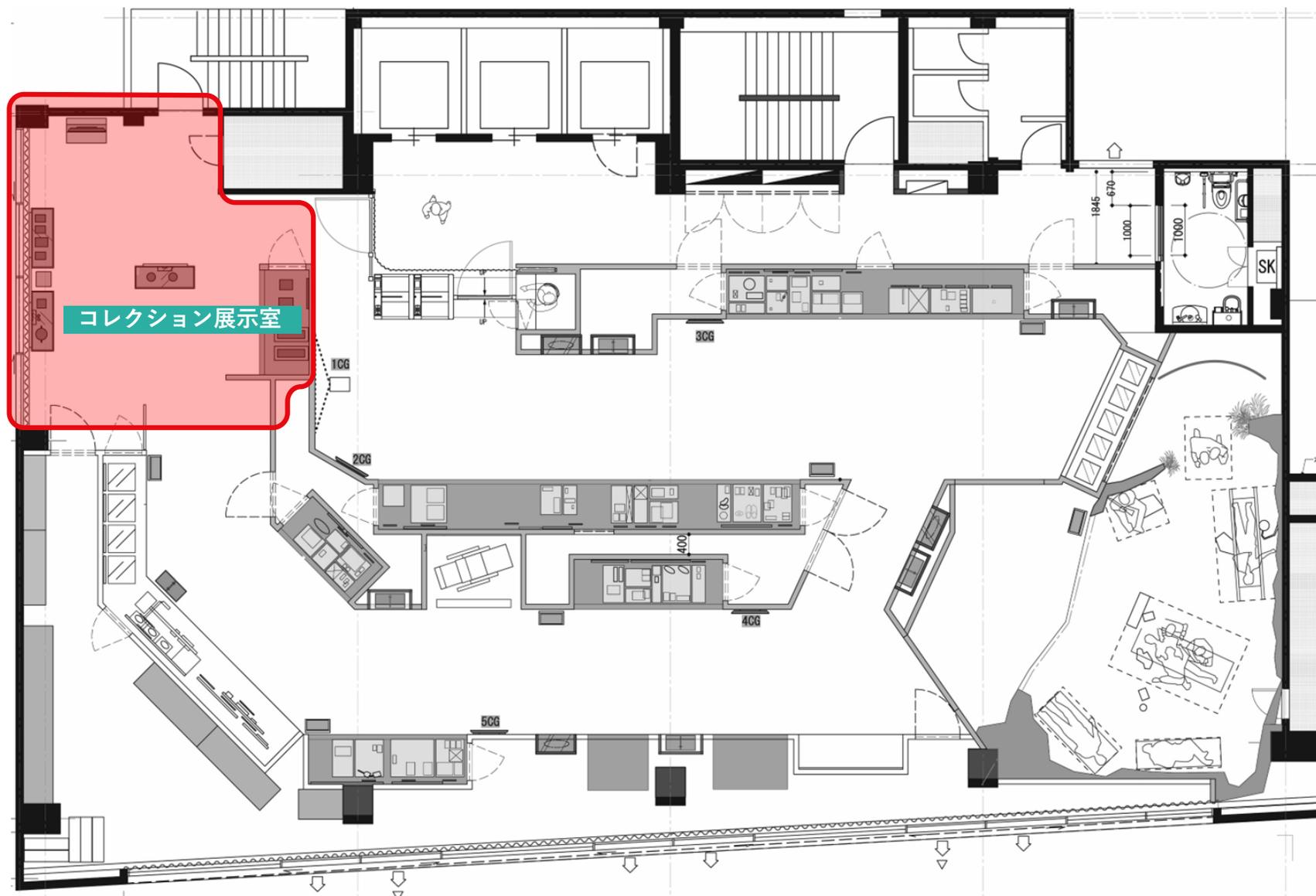


大腿義足

## IV. 展示設計内容

### 3. 常設展示室 コーナー展開：コレクション展示室

#### ■ コーナー位置



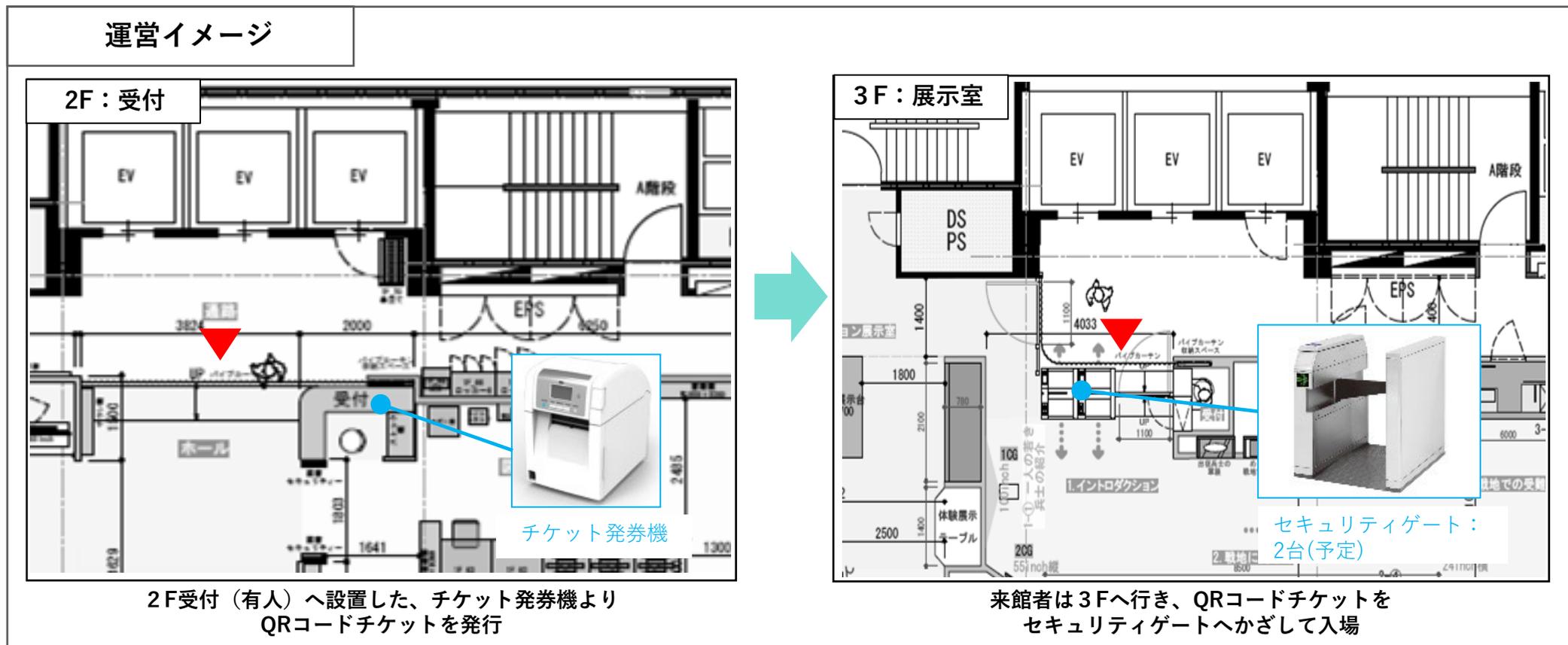
## V. 管理・運営システムについて

# V.管理・運営システム

## 1.管理システム概要

### ■来館者入退場の管理計画-1

- ・ 3F展示室の入退場はセキュリティゲートを設け、省人化を図り施設運営を行う。
- ・ 来場者数のカウント方法（予定）  
セキュリティゲートを通過した際の来場者数をゲート本体が自動カウントする。また、セキュリティゲート通過用のチケット発券システムにて、来場者数を正確にカウントすることを検討中である。



# V.管理・運営システム

## 1.管理システム概要

### ■来館者入退場の管理計画-2

#### 入場退場イメージ

##### ① 一般来館者

##### 3F 入退場フローイメージ



チケット発券機



QRコードチケット

チケット発券機より  
QRコードチケットを発行



セキュリティゲート

QRコードチケットを  
セキュリティゲートへかざして入場



セキュリティゲートより  
退場

##### ② 団体予約の来館者、 車椅子をご利用の方

##### 3F 入退場フローイメージ



職員による誘導



運営用扉

セキュリティゲートの横にある  
運営用扉より入場



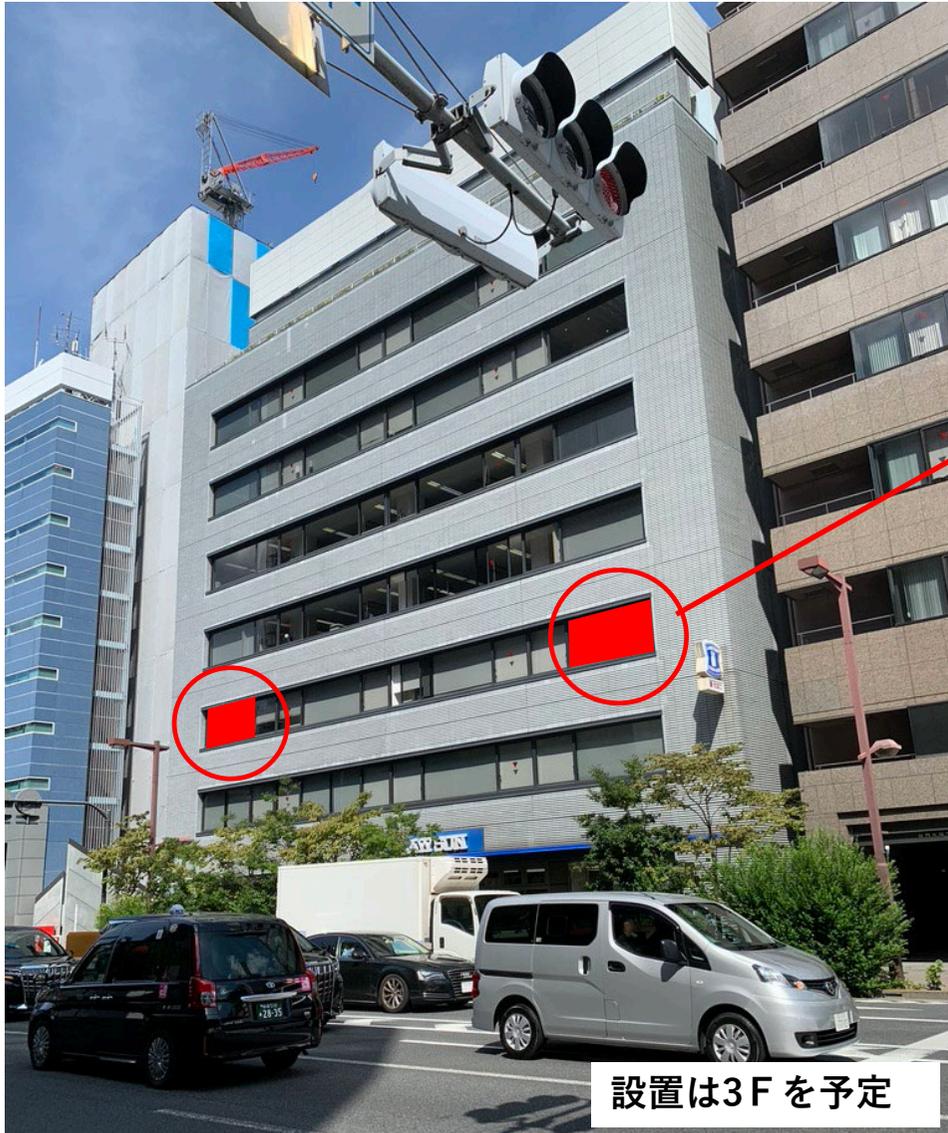
運営用扉

運営用扉より退場

# V.管理・運営システム

## 1.誘導サイン計画案

### ■屋外誘導サイン-1

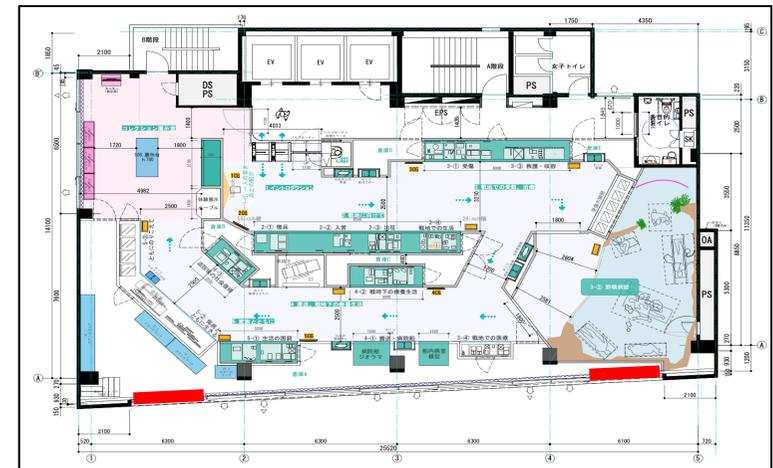


建物の3F室内側から屋外へ向けて「しょうけい館」のサインを掲出する予定である。

サインの内容イメージ



3F：サイン配置イメージ

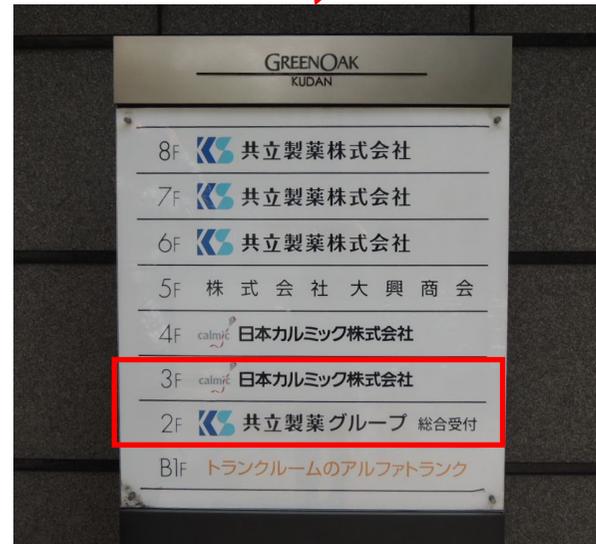
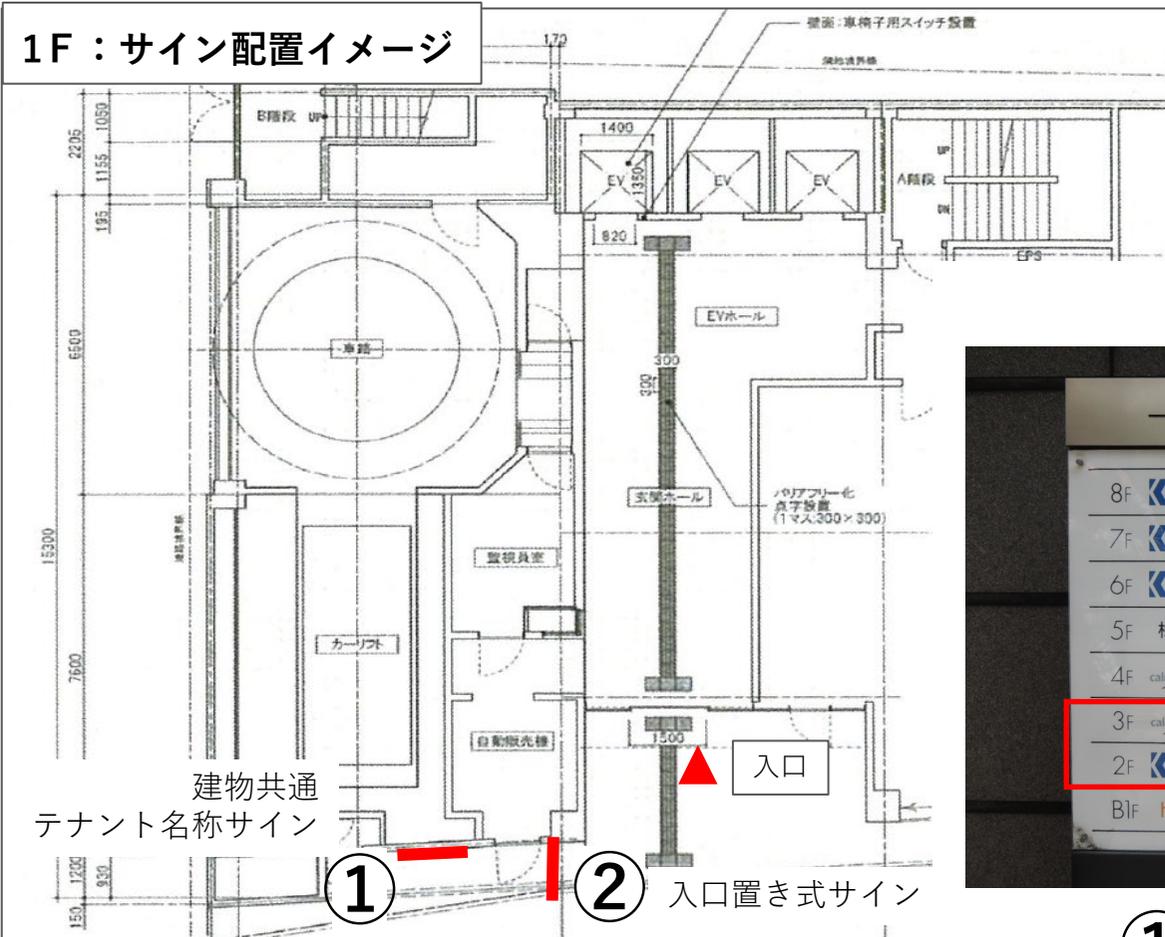
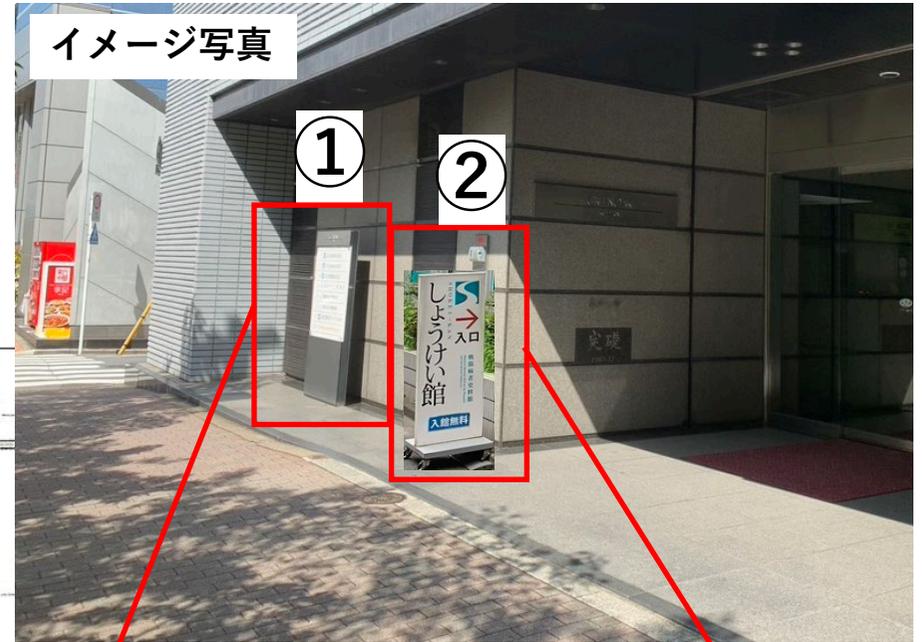


# V.管理・運営システム

## 1.誘導サイン計画案

### ■屋外誘導サイン-2

建物1Fエントランスポーチへ誘導サインを掲出する予定である。



① 建物共通  
テナント名称サイン

② 建物入口置き式サイン

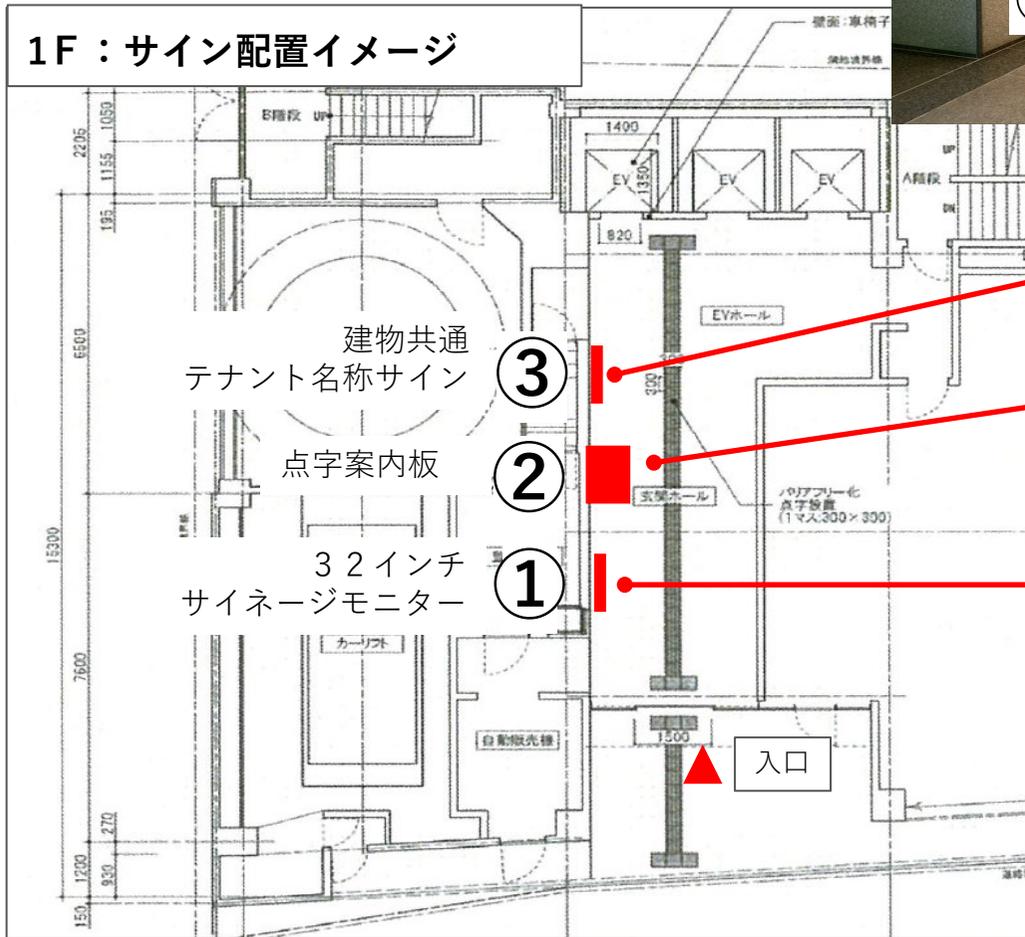
# V.管理・運営システム

## 1.誘導サイン計画案

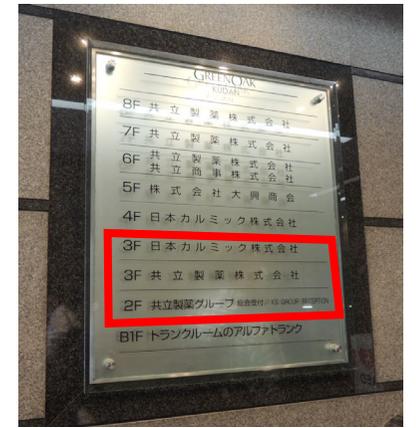
### ■屋内誘導サイン

建物1Fエントランスホール内へ  
誘導サインを掲出する予定です。

### 1F：サイン配置イメージ



### イメージ写真



③ 建物共通  
テナント名称サイン



② 点字案内板



① 32インチ  
サイネージモニター

## VI. 今後のスケジュールについて

## VI.今後のスケジュール

### 1.今後の主な工程

- ・ 令和4年 12月末 設計業務 完了
- ・ 令和5年 2月～ 施工業務 開始
- ・ 令和5年 7月頃 施工業務 完了
- ・ 令和5年 8月～ 引っ越し作業及び開館準備
- ・ 令和5年 秋頃 しょうけい館移転 開館予定

※上記スケジュールは、現時点での予定である。そのため今後の進捗により、変更する可能性がある。